

2010 年度

量的社会調査実習報告書

コミュニケーション・ツールの利用と
社会生活に関する調査

2011 年 3 月

成城大学文芸学部

社会調査士資格課程運営委員会

2010 年度

量的社会調査実習報告書

コミュニケーション・ツールの利用と
社会生活に関する調査

2011 年 3 月

成城大学文芸学部

社会調査士資格課程運営委員会

はしがき

本報告書は、2010年度成城大学文芸学部の授業科目「量的社会調査実習」の成果報告書である。量的社会調査実習は、「社会調査士」資格課程の認定科目のなかで最終科目に位置づけられている。調査計画を立案・実施しデータ解析・結果の解釈を経て、報告書の形式で新たな知見と調査協力者へ結果を公表することを目的としている。

2010年度は「コミュニケーション・ツールの利用と他者とのかかわり」をテーマに本学学生を対象に調査を実施した。今年度の履修生の関心ごとの一つとして、他者とのかかわりに関することが挙げられた。どのような状況でどの手段で他者と情報交換をするのか、自分は相手からどのように見られているのか、他者とかかわるための手段は増えているのに孤独感を感じるのは何故かなど、身近な友人関係や仕事上の人間関係をはじめとしてさまざまな場面での人付き合いの難しさがあり、それはどの履修生にも共通する問題であった。さらにネット上のコミュニケーション・ツールの発達には、他者とのかかわりの機会を増やす一方で便利さが生む弊害もあり、人間関係を円滑に維持するためには対面でのコミュニケーションとメディアを介したコミュニケーションをどのように使い分けるのかということも問題として浮上した。そこで、円滑な人間関係の維持にネット上のコミュニケーションはどのように貢献するのか、ということを出発点として調査票の作成をすすめ、夏期休暇直後の2週間に調査票の配布・回収を実施した。

本報告書では履修生が分担して分析結果を執筆した。の「調査概要」では、調査テーマに関する問題意識、調査方法、調査対象としたコミュニケーション・ツールに対する態度を測定する項目の潜在要因の分析結果などをまとめた。の「成城大生を対象とした日記ツールの利用目的について」では、自分の情報を発信する手段の一つである日記ツールを取り上げてその利用方法について分析・検討した結果をまとめた。

の「mixi空間とは何か mixi参加態度からみる対人関係の構築のされ方」では調査対象としたコミュニケーション・ツールに対する態度3タイプについて、どのように他者とかかわりどの程度コミュニケーション・ツールを利用するのかを分析し、ネット上のコミュニケーション・ツールが持つ役割を考察した。

データの解析に際し統計的には十分とはいえない部分も残しており、解釈には細心の注意を施したつもりである。また調査票の設問作成では、測定する項目が一部の機能に限定されたことから、憶測の域にとどまる解釈もあるものの、コミュニケーション・ツールに対する考え方と利用方法の関連性について検討できたと考える。

量的調査実習報告書は2007年度発行時より成城大学ホームページ上で閲覧できるようにしており、「コミュニケーション・ツールの利用と社会生活に関する調査」の結果を掲載した本報告書は、2011年春に既刊のものに引き続いて掲載を予定している。

2011年1月 鈴木 靖子

コミュニケーション・ツールの利用と社会生活に関する調査

はしがき

調査概要

福田 雪乃

1 問題	1
2 調査方法	1
3 mixi 上での行動、mixi に対する態度の因子分析と 下位尺度の作成 ...	4
4 自己開示意向尺度、外向性尺度、对人的志向性尺度の作成...	7
引用文献	7

成城大生を対象とした mixi 上の日記ツールの利用目的について

石井 綾・西村 美佐子

1 はじめに	8
2 方法	9
3 結果	10
4 考察	17
引用文献	19

mixi 空間とは何か

mixi 参加態度からみる対人関係の構築のされ方

嵯峨 麻理子・豊田 香純・家邊 佳世子

1 はじめに	20
2 方法	22
3 mixi に対する態度の分析 - 3 タイプの傾向	23
4 mixi に対する態度の分析 - 性別による 3 タイプの傾向	30
5 mixi に対する態度の分析 - 学年別 3 タイプの傾向 ...	36
引用文献	49

資料 51

執筆者一覧 59

調査概要

福田 雪乃

1 問題

近年は情報化社会と呼ばれているが、その中で最も情報を持ち共有しているのは若者である。その若者の多くが SNS と呼ばれるソーシャルネットワークサービスを利用している。ネットリサーチ株式会社が実施した「ネットリサーチの DIMSDRIVE 『ソーシャルネットワークサービス』に関するアンケート」によると、SNS の利用について以下のように述べている。『全員（N=4489）に「SNS に会員登録したことはありますか。」と尋ねたところ、“現在登録している”29.3%、“現在は登録していないが過去に登録していた”3.2%、“会員登録したことは無い”67.5%であった。年代別に“現在登録している”という回答を見ると、20代が 51.4%と最も多く半数以上であった。』

その中でも代表的な SNS は、ツイッター や mixi と呼ばれるものである。富士通総研「ブログ、OGM 利用実態調査 商品選択時の情報源として重視される OGM - 」によると以下のように述べている。『複数回答の選択肢から会員登録をしている SNS の種類を選んでもらったところ、日本最大の会員数と言われる mixi を選ぶ率が 9 割近く（86.6%）となった。』そこで、私たちは大学生が最も多く利用していると考えられる mixi についてその利用状況および日常生活との関わりを調査検討する。

問題意識としては二つあげられる。一つ目は、mixi のなかでの自分と本来の自分との隔たりである。普段の生活と mixi のなかでのふるまいは一致するのか、異なるのはどのような場合なのかということである。二つ目は、mixi の利用と対面状況における他者とのかかわりである。mixi の利用が増えると対面状況における人間関係が深まると推測する。なぜならば、mixi を利用することによって、対面する相手とのコミュニケーション回数が増えるからである。回数が増えるということは、より多くの時間をコミュニケーションを行う相手に費やすことになるからである。そこで、調査対象者の特性と mixi 上の行動や態度を比較をするという視点から mixi が持つ役割を明らかにする。

2 調査方法

2.1 調査手続き

1) 調査手続き

本調査では、以下の手続きで質問紙調査を実施した。

調査実施期間

2010年9月25日～10月14日

調査対象者

成城大学の学生。ただし、大学院生は対象外とした。

2) 調査方法

層化抽出法により層化の基準を「学部」と「性別」として全学年に対する各層の構成比を求めた。それに比例した調査数を各層の割り当て、合計 564 名を対象に留置調査法（自記式）による回答を依頼した。有効回収数は 349 であり、回収率は 62%であった。（調査票配布数と層別回収数については資料 1 を参照。）

2.2 分析項目

本研究に用いられた調査項目は次の通りである。

1) コミュニケーションツールの利用頻度

回答者はどれくらいの割合でコミュニケーションツールを使用しているのか、その利用状況を測定する項目である。具体的な質問項目は、「電話でのやり取り」、「メールでのやり取り」、「mixi へのログイン」など 8 項目であり、それぞれの項目に対して「毎日利用する」、「週 2 回～3 回利用する」、「月に 2 回～3 回利用する」、「月 1 回～3 カ月に 1 回利用する」、「利用しない」の 5 件法で回答を求めた。「毎日利用する」を、5 点、「利用しない」を 1 点として得点化した。

2) mixi 上での行動

回答者は mixi をどのように利用しているのかを測定する項目である。具体的な質問項目は、「mixi の日記やボイスで返信を書く相手が決まっている」、「マイミクの人数を増やすための工夫をしている」など 13 項目であり、それぞれの項目に対して「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」、「あてはまらない」の 4 件法で回答を求めた。「あてはまる」を 4 点、「あてはまらない」を 1 点として得点化した。

3) mixi に対する態度

回答者は mixi についてどのように考えているのかを測定する項目である。具体的な質問は「mixi 上で日記を書く人は、他者に読まれることを意識して日記を書いていると思う」、「mixi への参加は人間関係を円滑にする」、「友人と直接会って話すより mixi 上での交流の方が楽しい」など 27 項目であり、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の 4 件法で回答を求めた。「そう思う」を 4 点、「そう思わない」を 1 点として得点化した。

4) 対人的志向性

回答者は普段人間関係をどのようにとらえているのかを測定する項目である。斎藤ら(1987)による対人的志向性尺度に関する研究より、「日ごろから人間関係を大事にしている」、「人からの批判が気になる」、「自分とのかかわりのある人については、なるべくいろいろなことを知りたいと思う」など 18 項目を選出し、「とてもそう思う」、「少しそう思う」、「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の 5 件法で回答を求めた。「とてもそう思う」を 5 点、「まったくそう思わない」を 1 点として得点化した。

5) 外向性

性格特性 5 因子の中の外向性を測定する項目である。和田ら(1996)による性格特性の研究より、Big Five 尺度の外向性を構成する 12 項目(「話し好きな」、「無愛想な(逆転項目)」など)を選出し、「非常にあてはまる」、「かなりあてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「ほとんどあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の 7 件法で回答を求めた。「非常にあてはまる」を 7 点、「まったくあてはまらない」を 1 点として得点化した。

6) 自己開示傾向

回答者は様々な社会状況においてどの程度自己についての情報を交換しているのかを測定する項目である。遠藤ら(1989)による開示状況と自己開示傾向の研究より、自己開示状況要因を構成する項目の中から、(自分自身を相手に話すのは)「友人と 2 人で喫茶店で雑談しているとき」、「何人かの人に自宅で紹介されたとき」など 13 項目を選出した。そして、「こういうときに自分の感情や考えについて相手にわかってもらうために、できるだけ詳しく話そうとするだろう」を 6 点、「私ならこういうときがあっても、表面的な話しか、しないであろう」を 1 点として 6 件法で回答を求め得点化した。

7) mixi 利用状況

mixi 利用について測定する項目である。「mixi のアカウント所持の有無」、「mixi への登録方法」、「マイミク(mixi で相互に友人関係として登録した人)の人数」、「マイミクの友人の割合」を質問項目とした。

8) 個人属性

回答者個人の基本的属性として、「性別」、「学部」、「学年」を質問項目とした。

3 mixi 上での行動、mixi に対する態度の因子分析と下位尺度の作成

1) mixi に対する態度

mixi に対する態度を問う 27 項目に対する回答データ (mixi のアカウント非所持者を除く) をもとに主因子法による因子分析を行った。因子抽出後の共通性が著しく低い 1 項目を除外し、固有値の減衰状態およびバリマックス回転後の因子パターンの単純性・解釈可能性の観点から 3 因子解を採用した。そして、各々の因子に高い因子負荷量を持ち、かつ該当因子以外への因子負荷量が低い項目をそれぞれの因子の代表項目として選択し下位尺度を構成した。第 1 因子は、「友人と直接会って話すより mixi 上での交流のほうが楽しい」、「mixi でのやりとりは現実社会での自分の役割から離れて本来の自分を取り戻せるような気がする」などの項目から「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と命名した。第 2 因子は、「mixi を利用することによって、人や物の情報提供・情報交換の場になる」、「mixi 内ではマイミク同士で交流する傾向がある」などから、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と命名した。第 3 因子は、「mixi 上で日記を書く人は他者からのコメントを意識して日記を書いている」、「mixi での会話は現実離れしている」などから、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と命名した。バリマックスの回転後の因子負荷量および各下位尺度の信頼性係数を表 1 に示した。

表1 mixiに対する態度の因子分析

	Mixi内社会的コ ミュニケーショ ンタイプ	Mixi内現実延 長コミュニケー ションタイプ	Mixi内客観的コ ミュニケーショ ンタイプ
12)友人と直接会って話すよりmixi上での交流の方が楽しい	.657	-.081	.255
26)mixiでのやりとりは現実社会での自分の役割から離れて本来の自分を取り戻せるような気がする	.590	.126	.009
8)人間関係を維持するうえでmixiは必要である	.589	.199	.057
16)mixi上では個人と個人が率直に意見交換できる	.554	.130	.101
14)mixiでやりとりをすると感情が整理され自分の問題が明確になる	.547	.182	.124
3)mixiでやりとりをすると不満や葛藤などを発散しスッキリする	.490	.230	.176
15)マイミクの日記にはコメントをするのが礼儀である	.442	.094	.246
19)普段会って話をする間柄でもマイミクになっていないと距離を感じる	.434	.112	.192
22)mixi上では自分に共感してくれる人と親しくなれる	.432	.366	-.004
6)mixi上で自分のことを書くことにより、他人もその人自身のことを知らせてくれるようになる	.418	.391	.086
13)mixi上の日記を読むとそれを書いた人がよく理解できる	.416	.343	.041
2)mixiを利用することにより日常での友人との会話が増える	.394	.322	.176
7)マイミクの人数は多いほうが望ましい	.387	.172	.057
18)mixiを利用することによって、人や物の情報提供・情報交換の場になる	.113	.630	-.058
5)mixi内ではマイミク同士で交流する傾向がある	.102	.549	.248
24)mixiへの参加は人間関係を円滑にする	.482	.536	-.016
23)mixi上の日記には公開制限が必要である	-.040	.528	.109
20)mixiを利用することによって、余暇時間の有効利用ができる	.256	.513	-.005
25)mixiを利用することによって、自分という人間を他者に知ってもらえることができる	.439	.512	-.070
17)mixiの日記は日々の生活の記録になる	.268	.487	-.075
27)mixiは他者との連絡手段である	.340	.413	.019
11)mixiに日記を書く人はその日記に自分自身を表現している	.245	.396	.090
4)mixi上で日記を書く人は他者からのコメントを意識して日記を書いている	.074	.501	.570
10)mixi内での会話は現実離れしている	.275	-.112	.484
9)mixi上の日記へのコメントには批判的なものがある	.215	-.061	.461
1)mixi上で日記を書く人は、他者に読まれることを意識して日記を書いていると思う	-.016	.358	.445
説明率	15.715	29.079	34.198
係数	.849	.797	.631

2) mixi 上での行動

mixi をどのように利用するのかを問う 13 項目に対する回答データ (mixi のアカウント非所持者を除く) をもとに主因子法による因子分析を行った。因子抽出後の共通性が著しく低い 2 項目を除外し、固有値の減衰状態およびバリマックス回転後の因子パターンの単純性・解釈可能性の観点から、2 因子解を採用した。そして、各々の因子に高い因子負荷量をもち、かつ当核因子以外への因子負荷量が低い項目をそれぞれの因子の代表項目として選択し下位尺度を構成した。第 1 因子は「mixi をしていてよかったと思うことが多い」、「友人で構成された mixi のコミュニティに入っている」などから、「mixi 利用相互コミュニケーション型」と命名した。第 2 因子は「mixi 上の日記に自分の悩みを書いている」、「マイミクの人数を増やすための工夫をしている」などから、「mixi 利用自己開放型」と命名した。バリマックス回転後の因子負荷量および各下位尺度の信頼性係数を表 2 に示した。

表2 mixi上での行動の因子分析

	mixi相互 用コミュニ ケーション型	mixi利用自 己開放型
12) mixi をしていてよかったと思うことが多い	.677	.213
11) 友人で構成されたmixiのコミュニティに入っている	.587	-.075
6) mixiをやっている知人とは、できるだけマイミクになる	.540	.195
13) 会って話をするよりmixi上でやりとりすることのほうが多い相手がいる	.473	.238
4) mixiがきっかけで疎遠だった知り合いと仲良くやり取りをしている	.464	.315
1) mixiの日記やボイスで返信を書く相手が決まっている	.353	.238
9) mixi上の日記に自分の悩みを書いている	.121	.575
2) もともと実生活で日記を書いていたので、mixi上でも書いてみたい	.038	.531
10) マイミクの人数を増やすための工夫をしている	.151	.513
5) 他の人のmixi上の日記を見ると自分も書きたくなる	.326	.507
7) とりとめのないやりとりをするときは、メールよりmixiを使う	.311	.424
説明率	17.269	31.943
係数	.704	.678

4 自己開示意图度、外向性尺度、对人的志向性尺度の作成

1) 自己開示意图度

遠藤ら(1989)の自己開示意图度の中で、個人状況自己開示、社会的状況自己開示、非日常的状況自己開示各々を構成する項目を各因子の代表項目として下位尺度を作成した。各因子の信頼性係数は、.683、.795、.410であった。

2) 外向性尺度

和田ら(1996)のBig Five尺度の中から、外向性を構成する項目を因子の代表項目として下位尺度を作成した。外向性因子の信頼性係数は.884であった。

3) 对人的志向性尺度

斎藤ら(1987)による对人的志向性尺度の中で、人間関係志向性、对人的関心または反応性、個人主義的傾向各々を構成する項目を各因子の代表項目として下位尺度を作成した。各因子の信頼性係数は、.688、.675、.527であった。

引用文献

遠藤公久 1989 開示状況における開示意图度と開示規範からのズレとについて - 性格特徴との関連 - 教育心理学研究, 37(1), 20-28 .

富士通総研 2008「ブログ・OGM 利用実態調査 商品選択時の情報源として重視される OGM - 」.

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/cyber/report/cgm2008.html>

ネットリサーチ株式会社 2007 「ネットリサーチの DIMSDRIVE 『ソーシャルネットワーク - キングサービス』に関するアンケート」.

<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2007/070220/>

斎藤和志・中村雅彦 1987 对人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 34, 97 - 109 .

和田さゆり 1996 性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成 心理学研究, 67, 61-67 .

成城大生を対象とした mixi 上の日記ツールの 利用目的について

石井 綾・西村 美佐子

1 はじめに

今や、利用者数がのべ 2102 万人(2010 年 7 月 31 日現在)となった日本最大の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)である mixi は、現在も会員数を伸ばし続けている。2004 年 3 月 3 日のサービス開始当初から、すでに入会しているユーザーの招待がないと利用登録が出来ないという完全招待制を採用しており、ユーザーそれぞれの素性を明らかにすることで、健全で安心感のある居心地の良いコミュニティの維持につとめている。^{注1)}

mixi の特徴について小寺(2009)は「匿名の電子掲示板が自由な発言の機会を提供すると同時に誹謗中傷や無責任な書き込みの巣窟となっている状況にあって、既存の関係性を前提とした『mixi』は人々の欲求に応え、人々の日常的なコミュニケーションにオンラインという選択肢を付加していると考えられる」と述べている。このように、mixi は安全性を前面に出すという特徴で、他の SNS と一線を画している。

梅田ら(2007)は大学生の SNS 利用には、実際の友人との交流を目的とした日記ツールによるコミュニケーションがある、ということを示している。そしてその中で、SNS の日記ツールを利用したコミュニケーションタイプを主に 3 つ挙げている。(a)自分自身を周囲に理解してもらいたいタイプ(自己開示タイプ)、(b)友人との交流を第一の目的と考えるタイプ(交流主体タイプ)、(c)日記から友人のことを知りたいタイプ(友人・情報取得タイプ)である。友人とのコミュニケーションを全く目的としない利用者や独自の使い方をして利用する利用者など、3 つのいずれのタイプにも当てはまらない回答者は存在するものの、それらは少数にとどまっている。

これらのことから筆者らは、大学生は実際の友人との日常生活におけるコミュニケーションの一環として、日本最大の SNS である mixi を利用しており、またそのコミュニケーションの手段として、日記ツールの利用があると考えられる。本研究では日記ツールを利用する個人はどのような特性を持つのかを明らかにするため、日記ツールの利用に影響を及ぼす個人特性や要因について検討する。

2 方法

本報告では以下の項目を分析対象とした。また、本報告は mixi の日記の利用に関する分析であるため、mixi のアカウント所持者（250名）の回答を分析対象とした。

1) 外向性

和田（1996）の Big Five 尺度（7段階評定）をもとに外向性因子を構成する 12 項目を採用し、分析に用いた。

2) コミュニケーションツールの利用頻度

mixi やそのほかのコミュニケーションツールの利用頻度に関する 8 項目のうち日記の利用に関する 3 項目を分析に用いた。

3) 対人的志向性尺度

斎藤・中村（1987）の対人的志向性尺度をもとに 3 因子（人間関係志向性、対人的関心・反応性、個人主義傾向）を構成する 18 項目を採用し、分析に用いた。

4) 日記に関連する行動

mixi 上での行動に関する 13 項目のうち日記に関連する行動を問う 3 項目を採用し分析に用いた。

5) 日記に対する態度

mixi に対する態度に関する 27 項目のうち日記に対する態度を問う 8 項目を採用し分析に用いた。

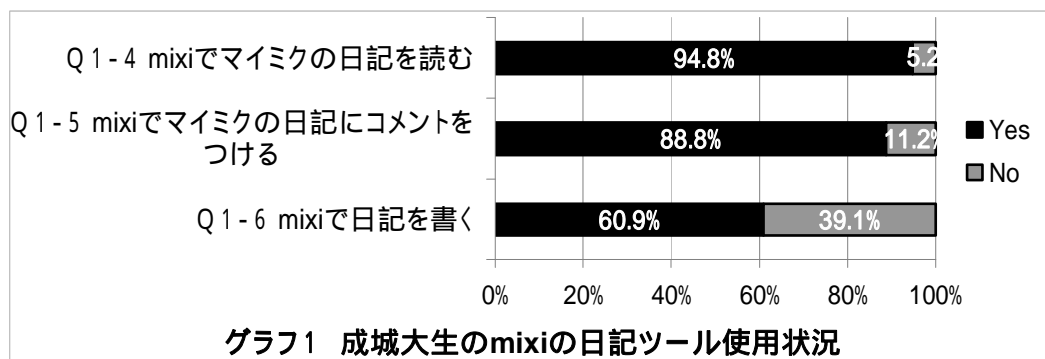
6) マイミクの人数

mixi で相互に友人関係として登録した人々の人数を分析に用いた。

3 結果

1) mixi の日記ツールの使用状況

日記ツールの使用状況について、「毎日利用する」「週2回～3回利用する」「月に2回～3回利用する」「月1回～3ヶ月に1回利用する」に回答した場合を Yes、「利用しない」に回答した場合を No とした結果を、グラフ1に示した。



2) mixi 上の日記ツールの使用頻度と外向性の関連

mixi 上の日記ツールの使用頻度と外向性の関連を調べるために相関分析を行い、その結果を表1に示した。「外向性」と「mixi でマイミクの日記を読むこと」($r=.144$)、「mixi でマイミクの日記にコメントをつけること」($r=.160$)との間に有意な正の相関がみられた。

表1 mixi上の日記ツールの使用頻度と外向性との相関

	外向性
Q1(4) mixiでマイミクの日記を読む	.144 **
Q1(5) mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.160 **
Q1(6) mixiで日記を書く	.074

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

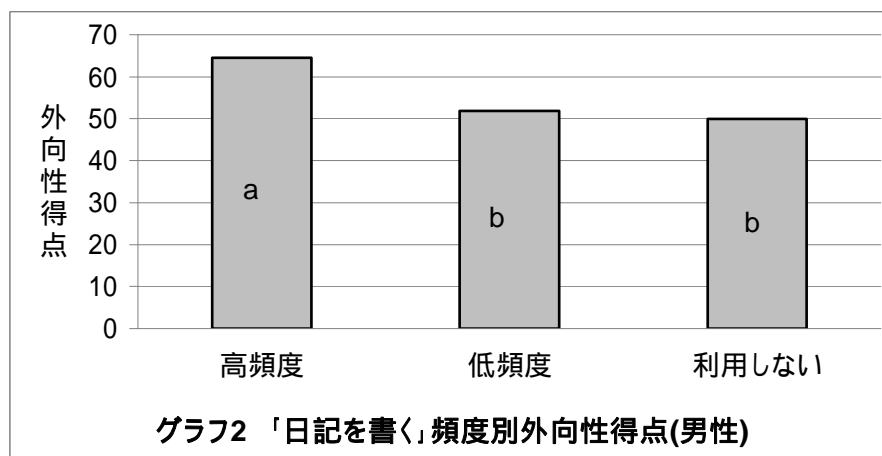
男女別の mixi 上の日記を書く頻度と外向性の関連を調べるため相関分析を行い、その結果を表2に示した。男性の「外向性」と「mixi で日記を書くこと」($r=.233$)との間に有意な正の相関がみられた。

表2 男女別のmixiで日記を書く頻度と外向性との相関

	外向性	
	男性	女性
Q1(6) mixiで日記を書く	.233 *	-.055

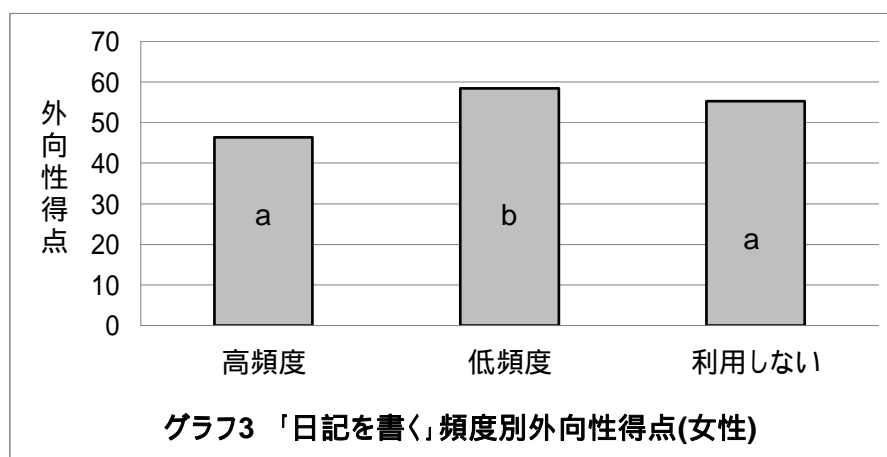
***p<.001, **p<.01, *p<.05

日記を書く頻度について、「毎日利用する」「週2回～3回利用する」の回答者を「高頻度群(以下高頻度)」、 「月に2回～3回利用する」「月1回～3ヶ月に1回利用する」の回答者を「低頻度群(以下低頻度)」、 「利用しない」の回答者を「利用しない群(以下利用しない)」として分類した。男性における日記を書く3頻度別の外向性得点の違いについて、一元配置分散分析を行い、3頻度別の平均値をグラフ2に示した。日記を書く3頻度の主効果は有意であった($F = 3.77$ $p < .05$)。さらに日記を書く3頻度間での差を検討するため scheffe 法による多重比較を行った。その結果、日記を書くのが低頻度(51.9)や利用しない(50.0)場合よりも、高頻度(64.6)の場合の方が値が有意に高かった。



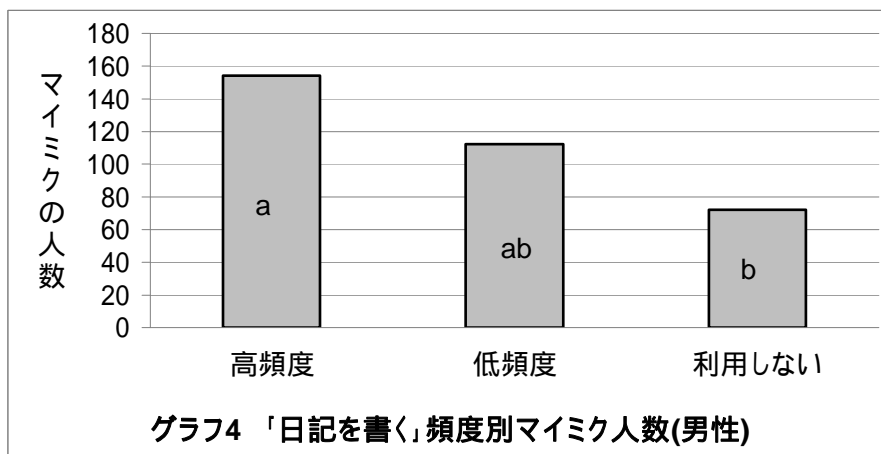
注) アルファベットが異なる場合は、その間に統計的に有意な差があることを示している

女性における日記を書く 3 頻度別の外向性得点の違いについて、一元配置分散分析を行い、3 頻度別の平均値をグラフ 3 に示した。日記を書く 3 頻度の主効果は有意であった($F = 3.49$ $p < .05$)。さらに日記を書く 3 頻度間での差を検討するため scheffe 法による多重比較を行った。その結果、日記を書くのが高頻度(46.3)の場合よりも、低頻度(58.5)の場合の方が値が有意に高かった。



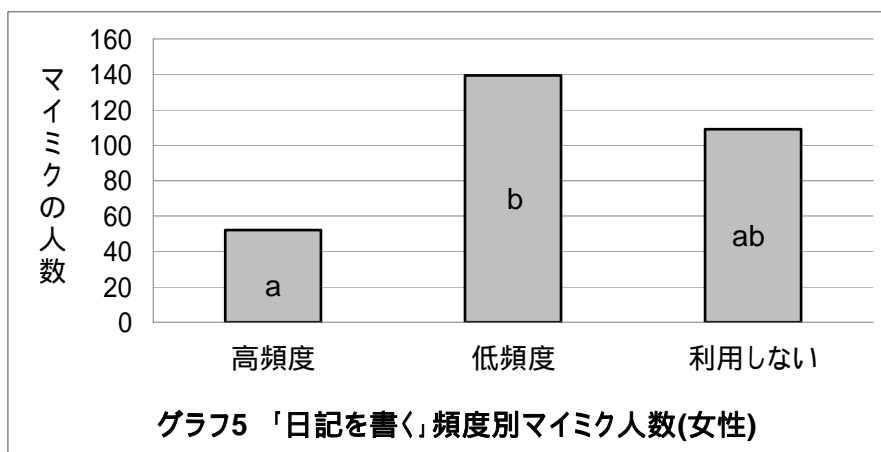
注) アルファベットが異なる場合は、その間に統計的に有意な差があることを示している

男性における日記を書く 3 頻度別のマイミクの人数の違いについて、一元配置分散分析を行い、3 頻度別の平均値をグラフ 4 に示した。日記を書く 3 頻度の主効果は有意であった($F = 5.08$ $p < .01$)。さらに日記を書く 3 頻度間での差を検討するため scheffe 法による多重比較を行った。その結果、日記を利用しない(72.0)場合よりも、日記を書くのが高頻度(154.2)の場合の方が値が有意に高かった。



注) アルファベットが異なる場合は、その間に統計的に有意な差があることを示している

女性における日記を書く3頻度別のマイミクの人数の違いについて、一元配置分散分析を行い、3頻度別の平均値をグラフ5に示した。日記を書く3頻度の主効果は有意であった ($F = 5.35$ $p < .01$)。さらに日記を書く3頻度間での差を検討するためscheffe法による多重比較を行った。その結果、日記を書くのが高頻度(52.2)の場合よりも、低頻度(139.5)の方が値が有意に高かった。



注) アルファベットが異なる場合は、その間に統計的に有意な差があることを示している

3) 日記ツールの利用と外向性を構成する性格特性語 12 項目との関連

日記ツールを使う人の具体的な外向性との関連を調べるために相関分析を行い、その結果を表3に示した。「mixiでマイミクの日記を読む」と「外向的」($r=.251$)、「社交的」($r=.246$)、「活動的な」($r=.192$)、との間に有意な正の相関、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」と「話し好き」($r=.209$)、「外向的」($r=.236$)、「積極的な」($r=.211$)との間に有意な正の相関がみられた。また、「mixiでマイミクの日記を読む」と「無口な」($r=-.148$)、「暗い」($r=-.150$)との間に有意な負の相関、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」と「暗い」($r=-.150$)、「無愛想な」($r=-.136$)との間に有意な負の相関がみられた。

表3 日記ツールの利用と外向性を構成する性格特性語との相関

	Q1(4) mixiでマイミクの 日記を読む	Q1(5) mixiでマイミクの日 記にコメントをつける	Q1(6) mixiで日記を書く
(1)話し好き	.182 **	.209 **	.099
(2)無口な	-.148 *	-.121	-.059
(3)陽気な	.188 **	.201 **	.077
(4)外向的	.251 **	.236 **	.069
(5)暗い	-.150 *	-.150 *	-.124
(6)無愛想な	-.122	-.136 *	-.013
(7)社交的	.246 **	.190 **	.051
(8)人嫌い	-.064	-.102	.027
(9)活動的な	.192 **	.194 **	.123
(10)意思表示しない	-.081	-.110	-.116
(11)積極的な	.150 *	.211 **	.048
(12)地味な	-.060	-.009	-.018

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

4) 日記ツールの利用と対人的志向性尺度を構成する 18 項目との関連

日記ツールの利用と対人的志向性尺度を構成する各項目との関連を調べるために相関分析を行い、その結果を表4に示した。「mixiでマイミクの日記を読む」では「日ごろから人間関係を大事にしている」($r=.198$)、「人づきあいがよい方だと思う」($r=.233$)、「微笑みかけたり嫌な顔をする人が気にかかる」($r=.194$)との間に有意な正の相関、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」では「人づきあいがよい方だと思う」($r=.170$)、「出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する」($r=.153$)、「他人の行動の動機を知ることに関心がある」($r=.183$)との間に有意な正の相関がみられた。また、「mixiで日記を書く」では「人から個人的な話をもちかけられるのは煩わしいものだ」($r=.199$)、「他人の感情や気持ちを考えることは意味がない」($r=.211$)、「人が本当はどんな人物であるかに関心がない」($r=.194$)との間に有意な正の相関がみられた。

表4 日記ツールの利用と対人的志向性尺度の各項目との相関

	Q1(4) mixiでマイミクの 日記を読む	Q1(5) mixiでマイミクの日 記にコメントをつける	Q1(6) mixiで 日記を書く
(1) 日ごろから人間関係を大事に している	.198 **	.138 *	.022
(2) 人付き合いがよい方だと思う	.233 **	.170 **	.071
(3) 自分は自分、他人は他人と割 り切って物事を考える方である	-.006	.051	.104
(4) 人が私の行為についてどのよ うに考えているかということは重要 ではない	.050	.090	.116
(5) 同じゲームをやるなら、一人で できるものよりも、相手がいてでき るものの方がよい	.013	.069	-.032
(6) あまり人のことには立ち入らな い方である	-.092	-.051	.084
(7) 人からの批判が気になる	.151 *	.075	-.034
(8) 出会った人とは、できるだけ親 密になろうと努力する	.097	.153 *	.011
(9) 仕事上の付き合いでは、個人 的に親しくなることは重要ではない	-.059	.000	.137 *
(10) 微笑みかけたり、嫌な顔をす る人が気にかかる	.194 **	.162 *	.096
(11) 他人の行動の動機を知ること に関心がある	.173 **	.183 **	.093
(12) 人から個人的な話をもちかけ られるのは煩わしいものだ	.076	.105	.199 **
(13) 人のことには構わずマイペー スで行動する方である	.049	.041	.031
(14) 他人の感情や気持ちを考える ことは意味がない	.015	.077	.211 **
(15) 人が本当はどんな人物である かに関心がない	-.049	-.011	.194 **
(16) 自分とかかわりのある人につ いては、なるべくいろいろなることを 知りたいと思う	.165 **	.130 *	.009
(17) 他人事で一喜一憂すること が多い	.054	.102	.022
(18) 自分にとって人間関係は煩わ しいものである	-.014	.008	.103

***p<.001, **p<.01, *p<.05

5) 日記を書く頻度と日記に関連する行動・態度との関連

日記を書く頻度と日記に関連する行動・態度との関連を調べるために相関分析を行い、その結果を表5に示した。「mixiで日記を書く」では「もともと実生活で日記を書いていたので、mixi上でも書いてみたい」(r=.270)、「他の人のmixi上の日記を見ると自分も書きたくなる」(r=.395)、「mixi上の日記に自分の悩みを書いている」(r=.394)、「mixiの日記は日々の生活の記録になる」(r=.138)との間に有意な正の相関がみられた。また、日記に関する質問同士の間では、「mixi上で日記を書く人は、他者に読まれることを意識して書いていると思う」と「mixi上で自分のことを書くことにより、他人もその人自身のことを知らせてくれるようになる」(r=-.151)との間に有意な負の相関がみられた。

表5 日記を書く頻度と日記に関連する行動・態度との相関

	Q1(6)mixiで日記を書く
(2)もともと実生活で日記を書いていたので、mixi上でも書いてみたい	.270 **
(5)他の人のmixi上の日記を見ると自分も書きたくなる	.395 **
(9)mixi上の日記に自分の悩みを書いている	.394 **
(1)mixi上で日記を書く人は、他者に読まれることを意識して日記を書いていると思う	.050
(4)mixi上で日記を書く人は他者からのコメントを意識して日記を書いている	.027
(6)mixi上で自分のことを書くことにより、他人もその人自身のことを知らせてくれるようになる	.095
(11)mixiに日記を書く人はその日記に自分自身を表現している	-.035
(13)mixi上の日記を読むとそれを書いた人がよく理解できる	.078
(17)mixiの日記は日々の生活の記録になる	.138 *
(21)mixiのボイスや日記で、友人達が話す内容が自分にはわからないことがあっても気にならない	.073
(23)mixi上の日記には公開制限が必要である	.117

***p<.001, **p<.01, *p<.05

4 考察

1) mixi の日記ツールの使用状況 (グラフ 1)

成城大学の学生の mixi 利用状況では、過半数の人が mixi の日記ツールを使用しているということがわかる。「日記を読む」や「日記にコメントをつける」には日記を通じて他者と交流しようという積極的な姿勢がうかがえる。反対に自ら「日記を書く」ことに関しては約 4 割の人が「書かない」と答えており、積極的に使われているツールというわけではないようである。「読む」ことや「コメントをつける」ことに比べると、「書く」ことは何の話題について述べるか考え、文章を推敲するといった手間がかかるため、利用されない傾向があるのかもしれない。

2) mixi 上の日記ツールの使用頻度、外向性の関連 (表 1 ~ 3、グラフ 2 ~ 5)

スイスの心理学者ユングは論文『無意識の心理学について』の中で外向型の人々の態度を「普通気さくでフランクで何事にも物怖じせず、どのような状況にもたやすく順応し関係を結ぶのも早く (中略) 気軽に未知に状況に乗り込んでいく性質」と述べている。つまり外向性とは、「外に関心が向いている性質」を意味している。mixi 上で日記を書くことは公開制限があるとはいえ、他者すなわち外に向けて自分を表現することであるとすると、日記を書く頻度の高い人は外向性の高い人と推測できる。そこで、日記ツールの利用に影響する要因として「外向性」との相関を調べた。その結果、「マイミクの日記を読む」、「マイミクの日記にコメントをつける」と「外向性」には有意差がみられたが、「日記を書く」との間には有意な関連がみられなかった。さらに、外向性の性格を表わす 12 の形容詞との関連を調べたところ、「マイミクの日記を読む」と「マイミクの日記にコメントをつける」では「話し好き」、「陽気な」、「積極的」などのポジティブな項目との間に正の相関がみられ、外向性を反転させた性格特性を示す「暗い」、「無口な」などのネガティブな項目との間には負の相関がみられた。「日記を書く」と外向性の性格を表わす 12 の形容詞との間には有意な関連がみられる項目はなかった。これらのことから、マイミクの日記を読んだりコメントする行為に関してはポジティブな姿勢で利用していると考えられる。

また、「日記を書く」ことに関して、男性と女性に分けて外向性との相関を出した。すると、男性のみ有意差がみられ、女性には有意差が見られなかった。違いを調べるため、さらに一元配置分析を行なったところ、男性が「利用しない」、「低頻度」グループは外向性得点が低く、「高頻度」グループは得点が高かった。一方、女性は「高頻度」グループは外向性が低く、「低頻度」グループが一番得点が高いという結果だった。これは「日記を書く」頻度とマイミクの人数の一元配置分析の結果と共通した傾向であった。すなわち男性は日記を書く頻度が「高頻度」になるにつれ友人が増える傾向があり、女性は「低頻度」の場合が一番マイミクの人数が多かった。また、対人的志向性尺度項目の「日ごろから人間関係を大事にしている」、「人付き合いがよい方だと思う」と外向性との間には有意な正の相

関がある。これらのことから、「日記を書く」行為に外向性が関係しているというより、まず外向性と交友関係が前提であることがいえる。

ところで、男女によるコミュニケーションツール利用の違いについて携帯メールを取り上げた研究がある。足立ら(2006)は「男性にとって携帯電話は積極的に新しい人間関係(特に異性関係)を広げるもの、女性にとっては親しい仲間(特に同性の友人)の絆を強めるものとして機能する可能性が考えられる」と述べている。本調査における日記ツールの利用に関してもこれと同じ傾向を示していると考えられる。外向性得点が高い男性は「コメントをつける」頻度が高いという結果があり、男性は交友関係が広いと日記を書く傾向があると考えられる。メールの利用頻度について、「毎日利用する」と答えた人は男性では7割に対し、女性は9割を占めている。女性では日記を書くのが「低頻度」グループの方が外向性が高いという結果は、わざわざ日記を利用せずとも親しい友人たちとはメールを利用しているためではないかと考える。

3) 日記ツールの利用と対人的志向性尺度の関連(表4)

mixi 上で日記を書く人はどのように他者を意識するのかということについて、対人的志向性尺度との相関を調べた。「マイミクの日記を読む」、「マイミクの日記にコメントをつける」には「日頃から人間関係を大切にしている」、「他人の行動の動機を知ることに関心がある」など対人関係を意識する項目との間に相関がみられた。一方、「日記を書く」に対しては「人が本当はどんな人物であるか関心がない」など対人を意識しない項目との間に相関がみられた。「日記を読む」ことや「日記にコメントする」ことによってコミュニケーションを図る姿勢がうかがえる一方、「日記を書く」に関しては他者を意識していないと思われる傾向がうかがえる。

4) 日記を書く頻度と日記に関する質問の相関(表5)

日記の利用の目的について、日記を書く頻度と日記に関連する行動・態度との相関を調べた。日記を書く頻度が高いほど、「もともと実生活で日記を書いていたので、mixi 上でも書いてみたい」、「他の人の mixi 上の日記を見ると自分も書きたくなる」、「mixi 上の日記に自分の悩みを書いている」、「mixi の日記は日々の生活の記録になる」という項目との高い相関がみられた。

川浦ら(2005)は日記の主な内容と形式について調査を行なっている。それによると、「個人的内容」は「事実に関する記述中心」となり、「社会的話題」では「意見中心」という結果が示されている。本調査では、日記の利用目的について具体的な内容を聞く質問は入っていないため明言できないが、mixi 上の日記は従来のノートや手帳などにつける日記と比べると変わりなく利用されているのではないかと推測する。

5) まとめ

mixi は他者との交流を深めるのに効果があるか、という疑問から「日記利用」という視点でこれまで分析を試みたが、先述のとおり、「読む」「コメントをつける」という他者に対する行為はポジティブで他者を意識する姿勢がみられた。これらの行為は外に関心が向いている行為であるから、有意な結果が出たのは当然のことであったのかもしれない。

一方、日記を書くことは性別で傾向が異なる結果となった。2) で述べたように、男性と女性ではコミュニケーションツールの利用の仕方に違いがあり、mixi の利用も同傾向があったと考えられる。日記を書くのが「高頻度」のグループは男女ともに人数が少ないという懸念はあるものの、男性に関しては、外向性の高い人は交友関係が広く「日記を書く」傾向にあるといえよう。

注1) mixi は2010年3月1日より、招待を受けずとも新規登録ができるようになったが、招待制も引き続き採用している。

引用文献

- 足立由美・雄山真弓・高田茂樹・松本和雄 2003 携帯電話コミュニケーションから見た大学生の対人関係 教育学科研究年報, 第29号, 7-14.
- 遠藤公久 1989 開示状況における開示意图と開示規範からのズレとについて - 性格特徴との関連 - 教育心理学研究, 37(1), 20-28.
- 川浦康至・坂田正樹・松田光恵 2005 ソーシャルネットワーク・サービスの利用に関する調査 mixi ユーザの意識と行動 コミュニケーション科学 23, 91-101.
- 小寺敦之 2009 若者のコミュニケーション空間の展開 SNS 『mixi』の利用と満足、および携帯メール利用との関連性 情報通信学会誌, 27, 55-66.
- 斎藤和志・中村雅彦 1987 対人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 34, 97 - 109.
- 梅田恭子・内藤裕美子・野崎浩成・江島徹郎 2007 大学生を対象としたSNSのWeb日記によるコミュニケーションの検討 日本教育工学会論文誌, 31, 69-72.
- G.Wehr 1969 C.G.Jung (G. ヴェーア著 山中康裕・藤原三枝子訳 1987 写真で読む口・口・口伝記叢書 ユングこころの医者、人間深層の探求者 理想社), 79-80.
- 和田さゆり 1996 性格特性用語を用いたBig Five 尺度の作成 心理学研究, 67, 61-67.

mixi 空間とは何か

mixi 参加態度からみる対人関係の構築のされ方

嵯峨 麻理子・豊田 香純・家邊 佳世子

1 はじめに

近年、携帯電話やスマートフォン、インターネットの普及が進み私たちのコミュニケーションのあり方も多様になってきた。中でも SNS は「20 代では 82.5%、一番利用頻度が低い 50 代でも 40.5% もの人が利用している」(ORICONSTYLE「SNS 実態調査」, 2010) 人気のコミュニケーションツールである。こうした SNS やブログなどのコミュニケーションツールの普及により、Web 上でのコミュニケーションが広く活発に行なわれている。これにより、インターネット上での知り合いのみならず現実世界での知り合いと、このようなコミュニケーションツールを使ってやりとりをする人が増加した。そうした利用の仕方を拡大させた要因の一つとして mixi という SNS の流行があると考えられる。

2004 年 2 月にサービスを開始した mixi は、特に日本での利用率が高い SNS である。2010 年 12 月 20 日の読売新聞オンラインでは以下のような記事を掲載している。『オリコンは 10 代～50 代の男女 1,000 名を対象にした「ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) に関する実態調査」を行い、結果を公表した。(中略) 圧倒的に高い支持を集めたのが、国内最大手の「mixi」(73.7%) だった。次いで今年注目を集めた「Twitter」が 48.4% を獲得。以降はゲーム機能を中心とした「GREE」が 25.8%、「モバゲータウン」が 22.2% と続き、世界最大の SNS である「Facebook」は 12.0% に留まった。』現在、会員数こそ各社が変動を遂げているものの、多くの人々に知れ渡り支持されている国内最大級の SNS は、mixi といっても過言ではないだろう。mixi は当初紹介制の会員サービスであり、人から紹介を受けなければ会員登録が出来ないという仕組みで運営されていた。そのため、現実世界の知り合いから紹介を受け会員登録した場合、mixi 上で現実世界の知り合いの繋がりが拡大していくことは自然な成り行きといえよう。

ORICONSTYLE が実施した『SNS 実態調査』(2010) によると、mixi が支持される理由として「友人・知人とコミュニケーションをとる上でとても有効的である」を挙げている。また、ソーシャルメディアの効果に関する調査では、絆を再生する効果として SNS は「友人・知人との絆」を深めると回答した割合が 39.7% となっている(総務省 平成 22 年版 情報通信白書)。また、前掲の読売新聞オンライン記事内では以下のような調査・報告がされている。『続いて、「主な利用目的」を調査したところ、mixi は「友人・知人とのコミュニケーション」(62.7%)、Twitter は「趣味などに関する情報収集」(41.5%)、GREE、モバゲータウンは「空いた時間を埋めるため」(GREE 65.6%、モバゲータウン 75.6%) が最も多く、それぞれが異なる結果が表れた。また、Facebook に関しては、「友人・知人と

のコミュニケーション」(53.4%)に続き、他の SNS ではあまり見られなかった「海外の友人とのコミュニケーション」(35.6%)が上位であった。上記の結果から、サービスごとに特徴があり、利用目的によってユーザーが使い分けを行っていることがわかった。』このように、他の SNS と比較しても、mixi は実際に友人・知人との間で多く利用されていることがわかる。さらに、mixi には同じ学校の同級生を検索する同級生検索や、メールアドレスによって ID を検索することができるメールアドレス検索など、現実世界の知り合いとのコミュニケーションを推奨・促進させるような独自のシステムが備えられている。この事からも、友人・知人とのコミュニケーションが mixi の主な利用目的となっていることが推測できる。

このように、現在では Web 上で現実世界の知り合いとのコミュニケーションを行なうような利用スタイルが普及しつつある。それでは、現実世界の知り合いに対して、対面的なコミュニケーションに加えて Web 上における非対面的なコミュニケーションを行なうということは、どのようなことなのか、従来のコミュニケーションとは何が異なるのか。すなわち、面と向かい合ってコミュニケーションをとることよりも、デジタル機器を通じた顔と顔を合わせないコミュニケーションの機会が増えてきていることは、若者の間での対人関係の希薄化を招くのではないか。そのような利用の仕方をしている人々は、Web 上でのコミュニケーションを通して現実世界の対人関係をどのように構築しようとしているのだろうか。

携帯電話を通じたコミュニケーションという視点からの先行研究として、対人関係の分析がいくつか行なわれている。大学生の携帯メールによるコミュニケーションは対人関係を広げる可能性を示唆する(足立・高田・雄山・松本、2001)という研究結果や、高校生では携帯通話や携帯メールを使用することでより親密性が高まる(木内・鈴木・大貫、2008)という研究結果がある。一方で、携帯電話を通じた人間関係の構築のされ方として、「選択的な人間関係」や「非常に排他性の強い閉鎖的關係」(岡田・松田、2002)などを指摘する研究もある。このような結果は、SNS などの Web 上でのコミュニケーションツールにもいえるのだろうか。

株式会社ミクシィは、2010年4月14日のプレスリリースにて mixi のユーザー数が 2000 万人を超えた事を発表した。また、株式会社ミクシィの 2007 年 5 月 21 日のプレスリリースによると、mixi のユーザーの割合は PC・モバイルともに 20 代が最も高く、特に 20 代前半のユーザーが多かった(2007 年 3 月 31 日時点)。この事から、mixi は今や、現代の殆どの大学生が利用しているのではないかと考え、SNS を代表するコミュニケーションツールとして mixi を採用し Web 上のコミュニケーションの傾向について調査・分析する。

本研究では mixi に対する参加態度を測定する 26 項目の因子分析を行なった結果に基づいて、3 因子を採用し分析に用いた。その 3 通りの態度から、

- 1) 成城大学の学生はどのように mixi を利用し、人間関係を構築しているのか
- 2) mixi 上での人間関係の構築には個人の特性によりどのような違いがあるのか

の 2 点を明らかにすることにより、成城大学生の mixi を利用した対人関係の構築の仕方を分析した上で、さらに mixi という空間とはどのようなものなのか、どのように捉えられているのかを検討する。

2 方法

本報告では以下の項目を分析対象とした。また、本報告は mixi に対する態度と mixi 上での行動をはじめとした対人関係に関する分析であるため、mixi のアカウント所持者(250 名)の回答を分析対象とした。

1) 外向性尺度

人々の現実社会での外向性を測定する項目である。和田ら(1996)の Big Five 尺度(7 段階評定)をもとに外向性を構成する 12 項目を採用し分析に用いた。

2) 自己開示意图向尺度

人々がどのような状況で、自己の事を語るかを測定する項目である。遠藤ら(1989)の自己開示意图向尺度(6 段階評定)をもとに 3 因子(個人的状況自己開示、社会的状況自己開示、非日常的状況自己開示)に属する 13 項目を採用し、分析に用いた。

3) 対人的志向性尺度

斎藤ら(1987)の対人的志向性尺度作成の試み(5 段階評定)をもとに 3 因子(人間関係志向性、対人的関心または反応性、個人主義的傾向)に属する 18 項目を採用し、分析に用いた。

4) mixi に対する態度尺度

mixi に対する参加態度に関する 26 項目の因子分析を行なった結果に基づいて、3 因子(mixi 内社会的コミュニケーションタイプ、mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ、mixi 内客観的コミュニケーションタイプ)を採用し分析に用いた。

5) mixi 上での行動尺度

mixi 上での利用行動に関する 11 項目の因子分析を行なった結果に基づいて、2 因子(mixi 利用相互コミュニケーション重視型、mixi 利用自己開放型)を採用し分析に用いた。

6) コミュニケーションツールの利用頻度

mixi をはじめとしたコミュニケーションツールの利用頻度(5 段階評定)を問う 8 項目を分析に用いた。

3 mixi に対する態度の分析 - 3 タイプの傾向

3.1 外向性因子、自己開示因子、対人的志向性因子、mixi に対する態度因子、 mixi 上での行動因子との関連

1) 各因子変数の値のレンジ

外向性因子、自己開示因子、対人的志向性因子、mixi に対する態度因子、mixi 上での行動因子について、各々の因子に高い負荷量をもち、それぞれの因子を代表する項目を加算して合計得点を求めた。それぞれの因子を代表する値の最大値、最小値、および理論上の中間値を表 1 に示した。

表1 外向性因子、自己開示因子、対人的志向性因子、mixiに対する態度因子、
mixi上での行動因子の各因子変数の値のレンジ

	評定		最小値	中央値	最大値
	項目数	カテゴリー数			
外向性	12	7	12	48.0	84
個人的状況自己開示	5	6	5	17.5	30
社会的状況自己開示	6	6	6	21.0	36
非日常的状況自己開示	2	6	2	7.0	12
人間関係志向性	10	5	20	35.0	50
対人的関心・反応性	6	5	10	20.0	30
個人主義的傾向	3	5	3	9.0	15
mixi内社会的コミュニケーションタイプ	13	4	13	27.5	42
mixi内現実延長コミュニケーションタイプ	9	4	9	22.5	36
mixi内客観的コミュニケーションタイプ	4	4	4	10.0	16
mixi利用自己解放型	5	4	5	12.5	20
mixi利用相互コミュニケーション重視型	6	4	6	15.0	24

2) 各因子間の相関係数

外向性因子、自己開示 3 因子、対人的志向性 3 因子、mixi に対する態度 3 因子、mixi 上での行動 2 因子の関連を調べるために相関分析を行ない、その結果を表 2 に示した。

「外向性」では「個人的状況自己開示」($r = .268$)、「非日常的状況自己開示」($r = .245$)、「人間関係志向性」($r = .399$)、「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r = .282$)との間に有意な正の相関がみられた。「個人的状況自己開示」は「人間関係志向性」($r = .283$)、「対人的関心・反応性」($r = .250$)との間に有意な正の相関、「社会的状況自己開示」は「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」($r = .236$)、「mixi 利用自己開放型」($r = .301$)との間に有意な正の相関、「非日常的自己開示」は「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」($r = .215$)、「mixi 利用自己開放型」($r = .266$)との間に有意な正の相関がみられた。「人間関係志向性」は「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」($r = .244$)との間に有意な正の相関、「対人的関心・反応性」は「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」($r = .256$)との間に有意な正の相関がみられた。「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」は「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r = .523$)、「mixi 利用自己開放型」($r = .536$)との間に有意な正の相関、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」は「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r = .429$)、「mixi 利用自己開放型」($r = .285$)との間に有意な正の相関、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」は「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r = .240$)、「mixi 利用自己開放型」($r = .248$)との間に有意な正の相関がみられた。

表2 外向性、自己開示、对人的志向性、mixiに対する態度、
mixi内行動の各因子間の相関係数

	個人的 状況	社会的 状況	非 日常的 状況	人間 関係 志向性	对人 関心 反応性	個人 主義	社交的 タイプ	現実 延長 タイプ	客観的 タイプ	相互 重視	自己 開放
外向性	.268 ***	.138 *	.245 ***	.399 ***	.039	.024	.092	.123	-.029	.282 ***	.034
個人的 状況 自己開示		.392 ***	.478 ***	.283 ***	.250 ***	-.061	.071	.157 *	.098	.200 **	.175 **
社会的 状況 自己開示			.499 ***	.009 ***	-.025	.045	.236 ***	-.012	.179 **	.156 **	.301 ***
非日常的 状況 自己開示				.158 *	.109	-.075	.215 **	.127	.108	.180 **	.266 ***
人間関係 志向性					.490 ***	-.251 ***	.081	.244 ***	-.042	.214 ***	-.063
对人的 関心・ 反応性						-.527 ***	.108	.256 ***	.095	.148 *	.029
個人主義 傾向							-.125	-.135 *	-.136 *	-.089	-.003
社交的 コミュニ ケーション タイプ								.609 ***	.402 ***	.523 ***	.536 ***
現実延長 コミュニ ケーション タイプ									.350 ***	.429 ***	.285 ***
客観的 コミュニ ケーション タイプ										.240 ***	.248 ***
利用相互 コミュニ ケーション 重視型											.453 ***
利用 自己 解放型											

p<.001, *p<.01, *p<.05

3.2 mixi に対する態度とコミュニケーションツール利用頻度の関連

mixi に対する各態度とコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べるために相関分析を行った。

表3a mixi内社会的コミュニケーションタイプと
コミュニケーションツールの利用頻度の相関係数

mixi内社会的コミュニケーションタイプ	
1)電話でのやりとり	.132 *
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.151 *
3)mixiへのログイン	.295 ***
4)mixiでマイミクの日記を読む	.350 ***
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.426 ***
6)mixiで日記を書く	.220 ***
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.428 ***
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.261 ***

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向

1-1) 結果

「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」とコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べるために相関分析を行った結果を表 3a に示した。

「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」は「社会的状況自己開示」($r=.236$)、「非日常的状況自己開示」($r=.215$)、「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r=.523$)、「mixi 利用自己開放型」($r=.536$)、「電話でのやりとり」($r=.132$)、「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」($r=.151$)、「mixi へのログイン」($r=.295$)、「mixi でマイミクの日記を読む」($r=.350$)、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.426$)、「mixi で日記を書く」($r=.220$)、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」($r=.428$)、「mixi のコミュニティでのやりとり」($r=.261$)との間に有意な正の相関がみられた。

1-2) 考察

mixi に対する態度因子と外向性因子、自己開示因子、mixi 上での行動因子の因子分析の結果から「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」は「社会的状況自己開示」や「非日常的状況自己開示」と相関があり、「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」や「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」や「mixi で日記を書く」などといった積極的なコミュニケーション行動と相関がある。社会的な状況および非日常的な状況とは、あまり親しくない知人が存在するような状況、または日常の世界から離れたような状況のことであるから、そのような相手に対して、またはそのような状況において積極的に自己開示を行なう人々であるということがうかがえる。また、「mixi 内社会的コミュニケーション

ンタイプ」の傾向が高い人々は、mixi 内において頻繁に自己開示を行なっているということから、自己開示の場である mixi という空間を、社会的かつ非日常的な空間であると捉えているとも考えられる。そのため、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は、mixi 内の特に親しい間柄以外の人々に対して積極的に対人コミュニケーションをとるような利用の仕方をしているのではないか。具体的には、現実世界では顔見知り程度であるがあまり親しくないような知人などと mixi 上で交流することによって仲を深めようとするといったようなケースなどが考えられる。更に発展させるならば、mixi の機能である「コミュニティ」に書き込むなど、現実世界における既存の人間関係をを超えて、全く顔も知らない相手と共通の趣味などを繋がりとして自分のことを相手に伝えることにより mixi 上でコミュニケーションをとるといったようなケースもあるのではないか。従って、mixi をこのように利用している人々は、対人関係を発展させることに意欲的で自ら積極的に外部へと働きかける傾向があると考えられる。

2) mixi 内現実延長コミュニケーションタイプの傾向

表3b mixi内現実延長コミュニケーションタイプと
コミュニケーションツールの利用頻度の相関係数

mixi内現実延長コミュニケーションタイプ	
1)電話でのやりとり	.060
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.171 **
3)mixiへのログイン	.226 ***
4)mixiでマイミクの日記を読む	.293 ***
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.304 ***
6)mixiで日記を書く	.127
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.430 ***
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.127

***p<.001, **p<.01, *p<.05

2-1) 結果

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」とコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べるために相関分析を行った結果を表 3b に示した。

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」は「個人的状況自己開示」($r=.157$)、「人間関係志向性」($r=.244$)、「対人的関心・反応性」($r=.256$)、「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r=.429$)、「mixi 利用自己開放型」($r=.285$)、「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」($r=.171$)、「mixi へのログイン」($r=.226$)、「mixi でマイミクの日記を読む」($r=.293$)、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.304$)、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」($r=.430$)との間に有意な正の相関、「個人主義傾向」($r=-.135$)との間に有意な負の相関がみられた。

2-2) 考察

「mixi 現実延長コミュニケーションタイプ」は「個人的状況自己開示」、「対人的関心・反応性」と「人間関係志向性」と有意な正の相関があり、「個人主義傾向」とは有意な負の相関がある。また、「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」、「mixi へのログイン」、「mixi でマイミクの日記を読む」、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」、「mixi でマイミクとボイスでやりとり」との間に有意な正の相関ある。「mixi 現実延長コミュニケーションタイプ」傾向が高い人々は、コメントやボイスなどを利用したマイミクとのやりとりを日常的に行なっているため、mixi 内で自己開示を行なっていると言う事がわかる。個人特性因子との相関分析結果と併せて考えると、自己開示を行なっている mixi という空間を個人的な空間または現実の延長線上の空間であると捉えており、その空間における人間関係を円滑にする為に mixi を利用していると言えよう。具体的には、現実世界での人間関係(コミュニティ)を mixi 内に持ち越し、現実世界でのコミュニケーションに加え mixi 上で更なるコミュニケーションを重ね、人間関係を円滑にしようとするような利用の仕方である。また、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」因子を構成する代表項目には「27) mixi とは他者との連絡手段である」が含まれていることから、mixi を現実世界での人間関係(コミュニティ)内を対象とした連絡ツールのように利用し、仲間内で情報を共有する事で人間関係を円滑にしようとするような利用の仕方も考えられよう。以上のことから「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」傾向の高い人々は mixi を普段の生活の延長とみなし、現在自らが持っている対人関係、コミュニティ内の関係を mixi 内にも持ち込み、より関係を深めようとする傾向があると考えられる。

3) mixi 内客観的コミュニケーションタイプの傾向

表3c mixi内客観的コミュニケーションタイプと
コミュニケーションツールの利用頻度の相関係数

mixi内客観的コミュニケーションタイプ	
1)電話でのやりとり	.065
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.114
3)mixiへのログイン	.067
4)mixiでマイミクの日記を読む	.129 *
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.180 **
6)mixiで日記を書く	.088
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.241 ***
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.142 *

***p<.001, **p<.01, *p<.05

3-1) 結果

「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」とコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べるために相関分析を行った結果を表 3c に示した。

「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」では「社会的状況自己開示」($r=.179$)「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」($r=.240$)「mixi 利用自己開放型」($r=.248$)「mixi でマイミクの日記を読む」($r=.129$)「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.180$)「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」($r=.241$)「mixi のコミュニティでのやりとり」($r=.142$)との間に有意な正の相関、「個人主義傾向」($r=-.136$)との間に有意な負の相関がみられた。

3-2) 考察

「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」では「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」、「mixi 利用自己開放型」との間に有意な正の相関があり、「個人主義的傾向」との間に有意な負の相関がある。そして「mixi でマイミクの日記を読む」、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」、「mixi でマイミクとボイスのやりとり」、「mixi のコミュニティでのやりとり」との間に相関がある。これらのことから、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々とは、マイミクが発したことに対する反応などが主な利用方法である日記へのコメントやボイスでのやりとり、コミュニティでのやりとりを日常的に行なうような利用スタイルがうかがえる。また個人主義的傾向ではないこと、マイミクが発したことに対する反応などが主な使用方法であることから、mixi を積極的に自己を発信する手段としない人々であり、密なやりとりよりも軽めのコミュニケーションを好む傾向がある人々だと思われる。このタイプの傾向の高い人々にとって、mixi とは、主として他人が発した何かに対する反応を行う場なのではないだろうか。自分に関する情報を発信する状況でも mixi とは社会的状況であり、個人的状況や非日常的状況のように特別な空間ではなく、他者と適度な距離を保つ空間と捉えていると推測する。これらのことから「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は、mixi を社会的な空間として捉え、その空間の中で相手と程よいペースを保ちつつも、相手にあまり深くかかわろうとしない第三者的視点による対人コミュニケーションを行なっているという事がうかがえる。

4 mixi に対する態度の分析 - 性別による 3 タイプの傾向

4.1 mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内社会的コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行ない、その結果を性別毎に表 4 に示した。

表4 mixi内社会的コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内社会的コミュニケーションタイプ	
	男性	女性
人間関係志向性	-.004	.189 *
対人的関心・反応性	.015	.203 *
個人主義的傾向	-.148	-.103
外向性	.049	.096
個人的状況自己開示	.102	.092
社会的状況自己開示	.314 **	.167
非日常的状況自己開示	.173	.318 ***
1) 電話でのやりとり	.216 *	.076
2) メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.225 *	.051
3) mixiへのログイン	.310 **	.243 **
4) mixiでマイミクの日記を読む	.308 **	.369 ***
5) mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.404 ***	.425 ***
6) mixiで日記を書く	.259 *	.160
7) mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.401 ***	.435
8) mixiのコミュニティでのやりとり	.351 ***	.188 *

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) 結果

男性では、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「社会的状況自己開示」($r=.314$)に有意な正の相関がみられた。また、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.404$)に有意な正の相関が見られ、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」($r=.401$)にも有意な正の相関が見られた。他、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi のコミュニティでのやりとり」($r=.351$)などに有意な正の相関が見られた。

女性では、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「人間関係志向性」($r=.189$)に有意な正の相関が見られた。また、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「対人的関心・反応性」($r=.203$)に有意な正の相関がみられ、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「非日常的状況自己開示」($r=.318$)でも有意な正の相関がみられた。また、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi へのログイン」($r=.243$)に有

意な正の相関が見られた。また、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクの日記を読む」($r=.369$)に有意な正の相関が見られ、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.425$)などにも有意な正の相関が見られた。

2) 考察

男女別に見てみると、男性で「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」傾向の高い人々は、「社会的状況自己開示」と有意な正の相関がある。また、「mixi をはじめとしたコミュニケーションツールの利用頻度」には全て有意な正の相関があった。男性の「mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向の高い人々」は社会的状況で自己開示を行う人が多く、mixi をはじめとしたコミュニケーションツールを高い頻度で利用することが分かる。つまり、mixi 上で社会的に振る舞う傾向のある男性は mixi を社会的な場として捉え、頻繁に利用しているのである。すなわち、mixi 上で社会的な男性は、普段の生活では深い付き合いよりも浅く広くといった付き合いをしているのかもしれない。

一方女性は「非日常的状況自己開示」に有意な正の相関がある。また、「人間関係志向性」や「对人的関心・反応性」とも有意な正の相関があった。普段から人間関係について気を使っているため、個人的でない、非日常的状況で本当の自己を開示している傾向があるとも言えるのではないだろうか。また、このタイプの傾向の高い女性の「mixi をはじめとしたコミュニケーションツールの利用頻度」については「mixi へのログイン」「mixi でマイミクの日記を読む」「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」「mixi のコミュニティでのやりとり」にのみ有意な正の相関があった。よってこのタイプの傾向の高い女性は mixi 空間を非日常的な場として捉えており、mixi 上で多くの人と交流機会があるツールを高い頻度で利用しているのである。

4.2 mixi 内現実延長コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内現実延長コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行ない、その結果を性別毎に表5に示した。

表5 mixi内現実延長コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内現実延長コミュニケーションタイプ	
	男性	女性
人間関係志向性	.168	.310 **
対人的関心・反応性	.242 **	.283 **
個人主義的傾向	-.158	-.132
外向性	.114	.080
個人的状況自己開示	.122	.203 **
社会的状況自己開示	-.013	.001
非日常的状況自己開示	.091	.192 **
1) 電話でのやりとり	.054	.052
2) メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.265 **	.001
3) mixiへのログイン	.266 **	.177
4) mixiでマイミクの日記を読む	.283 **	.264 ***
5) mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.283 **	.297 **
6) mixiで日記を書く	.122	.120
7) mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.426 ***	.408 ***
8) mixiのコミュニティでのやりとり	.091	.148

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) 結果

男性では「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「対人的関心・反応性」(r=.242)と有意な正の相関が見られた。また、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」(r=.265)や、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「mixi へのログイン」(r=.266)に有意な正の相関が見られた。他、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」(r=.426)などに有意な正の相関が見られた。

女性では、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「人間関係的志向性」(r=.310)で有意な正の相関が見られた。「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「対人的関心・反応性」(r=.283)でも有意な正の相関が見られた。また「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「個人的状況自己開示」(r=.203)に有意な正の相関が見られた。また、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「非日常的状況自己開示」(r=.192)に有意な正の相関が見られた。また、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクの日記を読む」(r=.264)に有意な正の相関が見られ、「mixi 内現実延長コミュニケ

ーションタイプ」と「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」($r=.297$)にも有意な正の相関が見られた。「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」($r=.408$)に有意な正の相関が見られた。

2) 考察

男性では「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」傾向の高い人々と「対人的関心・反応性」「メール(携帯電話・PC いずれかを含む)でのやりとり」「mixi へのログイン」「mixi でマイミクの日記を読む」「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」、「mixi でマイミクとボイスでやりとり」に有意な正の相関が見られた。

次に女性では「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」傾向の高い人々と「人間関係志向性」「対人的関心・反応性」「個人的状況自己開示」「非日常的状況自己開示」「mixi でマイミクの日記を読む」「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」「mixi でマイミクとボイスのやりとり」に有意な正の相関があった。男女とも他人の反応が気になり、女性では人間関係を大事に思っている傾向が高いと言えよう。また、女性は個人的状況や非日常的状況で自己開示をしようとする傾向がある。このタイプ傾向の高い女性は、mixi 空間でのコミュニケーションを、個人的状況での自己開示と捉え、同時に非日常的な空間としても捉えているのである。他人が気になる、人間関係が気になる故に mixi 上にも普段の人間関係を持ち込み、コミュニケーションをとることで普段の生活でも円滑な人間関係の構築を図ろうとしているのである。逆に言うと mixi に現実の人間関係を持ち込むタイプの女性は、人間関係や他人の反応を気にしており、仲の良い友達など、個人的な状況でなら自己開示が出来るタイプだと言えよう。

一方、男性のこのタイプ傾向の高い人々は「対人的関心・反応性」と有意な正の相関があったが、同時に「mixi へのログイン回数」や「メール(携帯電話・PC いずれかを含む)でのやりとり」とも有意な正の相関があった。他人の反応が気になるタイプなのは女性と同じであるが、メールの回数や mixi のログイン回数の頻度の高さに繋がっていることから、男性はコミュニケーションツールとして用いている傾向が高いと言える。このことから、このタイプ傾向の高い男性にとって、mixi とは、ツールとしての側面を持った、普段の生活の人間関係を円滑にするためのものであるとも言える。逆に言うと、このような使い方をする男性は、普段の生活で他人の反応を気にしながら人間関係を構築しているといえる。

4.3 mixi 客観的コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内客観的コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行い、その結果を性別毎に表6に示した。

表6 mixi内客観的コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内客観的コミュニケーションタイプ	
	男性	女性
人間関係志向性	.130	-.145
対人的関心・反応性	.151	.049
個人主義的傾向	-.227 *	-.021
外向性	.071	-.049
個人的状況自己開示	.207 *	.031
社会的状況自己開示	.229 *	.122
非日常的状況自己開示	.092	.095
1) 電話でのやりとり	.154	.030
2) メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.199 *	.074
3) mixiへのログイン	.029	.073
4) mixiでマイミクの日記を読む	.126	.140
5) mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.205 *	.174 *
6) mixiで日記を書く	.134	.042
7) mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.260 **	.279 **
8) mixiのコミュニティでのやりとり	.124	.139

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) 結果

男性では「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「個人主義的傾向」($r=-.227$)に有意な負の相関が見られた。また「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「個人的状況自己開示」($r=.207$)に有意な正の相関が見られ、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「社会的状況自己開示」($r=.229$)においても有意な正の相関が見られた。また、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」($r=.199$)に有意な正の相関が見られ、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」($r=.205$)に有意な正の相関、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「mixiでマイミクとボイスでのやりとり」($r=.260$)でも有意な正の相関が見られた。

女性では、個人特性においては「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と他の因子において有意な結果が得られなかった。また、コミュニケーションツールに関しては「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」($r=.174$)に有意な正の相関が見られた。「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」と「mixiでマイミクとボイスでのやりとり」($r=.279$)に有意な正の相関が見られた。

2) 考察

「mixi 内容観的コミュニケーションタイプ」傾向の高い男性と「個人主義的傾向」には有意な負の相関がみられた。また「個人的状況自己開示」「社会的状況自己開示」「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」に有意な正の相関が見られた。mixi をこのように利用するタイプの男性は、個人的状況、社会的状況で自己開示をする人である。それゆえ、mixi 上で何かを発信する時は個人的な状況、また社会的な状況として捉えているのである。普段の生活ともあまり変わらない個人的、社会的空間であるがゆえに、積極的に介入する空間でもないということである。

一方「mixi 内容観的コミュニケーションタイプ」傾向の高い女性は「個人特性尺度」とは全て相関が認められなかった。「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」と「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」については有意な正の相関があった。利用頻度から見ると、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」や「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」に留まるように、主に他人に対して何らかの反応をするという使い方をしてるように思われる。

5 mixi に対する態度の分析 - 学年別 3 タイプの傾向

5.1 mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内社会的コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、mixi 上での行動、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行ない、その結果を学年（高学年・低学年）ごとに表 7 に示した。

表7 mixi内社会的コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内社会的コミュニケーションタイプ	
	低学年	高学年
人間関係志向性	.154	-.017
対人的関心・反応性	.096	.146
個人主義的傾向	-.109	-.116
外向性	.194 *	-.136
個人的状況自己開示	.075	.146
社会的状況自己開示	.307 ***	.100
非日常的状況自己開示	.248 **	.216
mixi利用相互コミュニケーション重視型	.487 ***	.595 ***
mixi利用自己開放型	.549 ***	.522 ***
1)電話でのやりとり	.142	.131
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.208 **	-.072
3)mixiへのログイン	.307 ***	.188
4)mixiでマイミクの日記を読む	.370 ***	.249 *
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.442 ***	.356 **
6)mixiで日記を書く	.186 *	.251 *
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.418 ***	.436 ***
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.192 *	.443 ***

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) コミュニケーションツールの利用頻度、mixi 上での行動との相関

1-1) 結果

低学年では、「電話でのやりとり」を除くすべてのコミュニケーションツールの利用頻度項目との間に有意な正の相関がみられた。それぞれの相関係数は以下の通りである。「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」($r=.208$)、「mixiへのログイン」($r=.307$)、「mixiでマイミクの日記を読む」($r=.370$)、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」($r=.442$)、「mixiで日記を書く」($r=.186$)、「mixiでマイミクとボイスでのやりとり」($r=.418$)、「mixiのコミュニティでのやりとり」($r=.192$)

高学年では、「mixiでマイミクの日記を読む」($r=.249$)、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」($r=.356$)、「mixiで日記を書く」($r=.251$)、「mixiでマイミクとボイスでの

やりとり」($r=.436$)、「mixiのコミュニティでのやりとり」($r=.443$)との間に有意な正の相関がみられた。

1-2) 考察

「mixi内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、「電話でのやりとり」を除いてすべての項目に有意な正の相関がみられたことから、全体の場合(3.2 mixiに対する態度とコミュニケーションツール利用頻度の関連を参照)とほぼ同じ考察ができよう。つまり、mixiをはじめとしたコミュニケーションツールを日常的に利用し、また対人コミュニケーションを頻繁に行なうような利用スタイルがうかがえる。しかし全体と比べて、低学年の「mixi内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は、電話よりもメールでのやりとりを日常的に利用しているという事が言える。

一方、高学年では、「電話でのやりとり」「メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり」「mixiへのログイン」に有意な相関がみられなかったものの、mixi内機能の利用頻度には、全体・低学年と同様にすべてに有意な正の相関がみられた。このように学年別ではmixi内の機能の利用頻度に差はみられなかった事から、「mixi内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は学年に関わらずmixi内の機能をよく利用しているという事が言えよう。

2) 外向性尺度、自己開示意向尺度、対人的志向性尺度との相関

2-1) 結果

低学年では「外向性」($r=.194$)、「社会的状況自己開示」($r=.307$)、「非日常的状況自己開示」($r=.248$)との間に有意な正の相関がみられた。

高学年では、全ての因子との間に有意な相関がみられなかった。

2-2) 考察

「mixi内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、社会的な状況および非日常的な状況において積極的に自己開示をする人物であるという事が言える。これは、全体の場合と共通する傾向である。更に、低学年の場合では「外向性」への有意な正の相関がみられた。このことから、「mixi内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、全体と同じような傾向に加え、比較的外向性が高いという事が言える。

5.2 mixi 内現実延長コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内現実延長コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、mixi 上での行動、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行ない、その結果を学年（高学年・低学年）ごとに表 8 に示した。

表8 mixi内現実延長コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内現実延長コミュニケーションタイプ	
	低学年	高学年
人間関係志向性	.302 ***	.148
対人的関心・反応性	.280 ***	.216
個人主義的傾向	-.141	-.093
外向性	.291 ***	-.207
個人的状況自己開示	.236 **	.067
社会的状況自己開示	.097	-.229
非日常的状況自己開示	.171 *	.075
mixi利用相互コミュニケーション重視型	.442 ***	.376 ***
mixi利用自己開放型	.337 ***	.152
1)電話でのやりとり	.103	-.033
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.209 **	.028
3)mixiへのログイン	.276 ***	.070
4)mixiでマイミクの日記を読む	.342 ***	.145
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.388 ***	.104
6)mixiで日記を書く	.169 *	.030
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.480 ***	.335 **
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.153	.081

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) コミュニケーションツールの利用頻度、mixi 上での行動との相関

1-1) 結果

低学年では「電話でのやりとり」、「mixi のコミュニティでのやりとり」を除くすべてのコミュニケーションツールの利用頻度項目との間に有意な正の相関がみられた。それぞれの相関係数は以下の通りである。「メール（携帯電話・PC いずれかを含む）でのやりとり」（ $r=.209$ ）、「mixi へのログイン」（ $r=.276$ ）、「mixi でマイミクの日記を読む」（ $r=.342$ ）、「mixi でマイミクの日記にコメントをつける」（ $r=.388$ ）、「mixi で日記を書く」（ $r=.169$ ）、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」（ $r=.480$ ）。

高学年では、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」（ $r=.335$ ）との間にのみ有意な正の相関がみられた。mixi 上での行動では「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」（ $r=.376$ ）にのみ有意な正の相関がみられた。

1-2) 考察

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、「mixi 上で日記を書く」に有意な正の相関がみられた以外は、全体の場合とほぼ同じ傾向がみられた。つまり、マイミクの更新情報を頻繁に確認し、マイミクの日記へのコメントやボイスのやりとりなどの対人コミュニケーションを日常的に行なうというような利用スタイルである。これらに加えて、低学年の場合では日記を書く事も利用スタイルの中に加わるという事が言える。

一方、高学年では、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」にのみ有意な正の相関がみられた。このことから、mixi 上で日記を介したコミュニケーションはあまり頻繁には行なわれないが、マイミクとのボイスでのやりとりは日常的に行なっているというような利用スタイルの違いがうかがえよう。

また、mixi 上での行動について、低学年では2つの因子ともに有意な正の相関がみられ、高学年では「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」にのみ有意な正の相関がみられた。このことから、日記を書くなどの行動よりも対人コミュニケーションを重視する高学年の利用スタイルがうかがえる。

2) 外向性尺度、自己開示意向尺度、対人的志向性尺度との相関

2-1) 結果

低学年では「外向性」($r=.291$)、「個人的状況自己開示」($r=.236$)、「人間関係志向性」($r=.302$)、「対人的関心または反応性」($r=.280$)との間に有意な正の相関がみられた。

高学年では、全ての因子との間に有意な相関がみられなかった。

2-2) 考察

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、全体の場合と同様な傾向に加え、「外向性」にも有意な正の相関がみられた。このことから、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、個人的な状況において積極的に自己開示をする個人特性と、人間関係を大事に考え他人からの反応を気にし、なおかつ他人に構わずマイペースに行動する傾向が低いというような個人特性を持つ傾向が高く、更に外向性が高い傾向があると言える。

5.3 mixi 内容観的コミュニケーションタイプの傾向

mixi 内容観的コミュニケーションタイプと対人的志向性尺度、外向性尺度、自己開示意向尺度、mixi 上での行動、およびコミュニケーションツールの利用頻度との関連を調べる為に相関分析を行ない、その結果を学年（高学年・低学年）ごとに表9に示した。

表9 mixi内容観的コミュニケーションタイプと個人特性、mixiをはじめとしたコミュニケーションツール利用頻度の相関

	mixi内容観的コミュニケーションタイプ	
	低学年	高学年
人間関係志向性	.013	-.166
対人的関心・反応性	.163 *	-.053
個人主義的傾向	-.205 **	.057
外向性	.032	-.077
個人的状況自己開示	.134	.094
社会的状況自己開示	.264 ***	.020
非日常的状況自己開示	.067	.148
mixi利用相互コミュニケーション重視型	.286 ***	.111
mixi利用自己開放型	.250 **	.222
1)電話でのやりとり	.124	-.036
2)メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	.137	.008
3)mixiへのログイン	.142	-.175
4)mixiでマイミクの日記を読む	.183 *	-.043
5)mixiでマイミクの日記にコメントをつける	.233 **	.070
6)mixiで日記を書く	.063	.163
7)mixiでマイミクとボイスでのやりとり	.243 **	.296 **
8)mixiのコミュニティでのやりとり	.089	.268 *

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1) コミュニケーションツールの利用頻度、mixi 上での行動との相関

1-1) 結果

低学年では「mixiでマイミクの日記を読む」($r=.183$)、「mixiでマイミクの日記にコメントをつける」($r=.233$)、「mixiでマイミクとボイスでのやりとり」($r=.243$)、「mixi利用相互コミュニケーション重視型」($r=.286$)、「mixi利用自己開放型」($r=.250$)との間に有意な正の相関がみられた。

高学年では「mixiでマイミクとボイスでのやりとり」($r=.296$)、「mixiのコミュニティでのやりとり」($r=.268$)との間に有意な正の相関がみられた。一方、mixi上での行動の各因子との有意な相関はみられなかった。

1-2) 考察

「mixi内容観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、「mixiでマイミクの日記を読む」に有意な正の相関がみられ、「mixiのコミュニティでのやりとり」に

有意な相関がみられなかった以外は、低学年では全体の相関分析結果とほぼ同じ傾向がみられた。つまり、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」と同様に、日記を書くなどして自ら情報を発信する事は日常的には行なわないが、マイミクの日記へのコメントやボイスでのやりとりを日常的に行なうような利用スタイルである。この事から、相手との弱い紐帯によるコミュニケーションを好む「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々といえども、低学年では、マイミクの日記を読むという行動が利用スタイルに含まれているという事がうかがえる。

一方、高学年では、「mixi でマイミクとボイスでのやりとり」「mixi のコミュニティでのやりとり」に有意な正の相関がみられた。低学年と比較して見ると、マイミクの日記を読んだりコメントを付けたりなどといった日記を介したコミュニケーションについて高学年では頻繁に行なわれる傾向がみられないという事が言えよう。また、コミュニティでのやりとりを頻繁に行なうという点は全体の傾向と同様である。

また、mixi 上での行動について、低学年では各因子に有意な正の相関がみられたのに対して、高学年では各因子ともに有意な相関がみられなかった。この事から、日記を書くなどの自己情報の発信や、対人コミュニケーションなどの行動は、低学年と高学年とで異なるという事がうかがえる。

2) 外向性尺度、自己開示意向尺度、対人的志向性尺度との相関

2-1) 結果

低学年では「社会的状況自己開示」($r=.264$)、「対人的関心・反応性」($r=.163$)との間に有意な正の相関がみられ、「個人主義的傾向」($r=-.205$)との間に有意な負の相関がみられた。

高学年では、全ての因子との間に有意な相関がみられなかった。

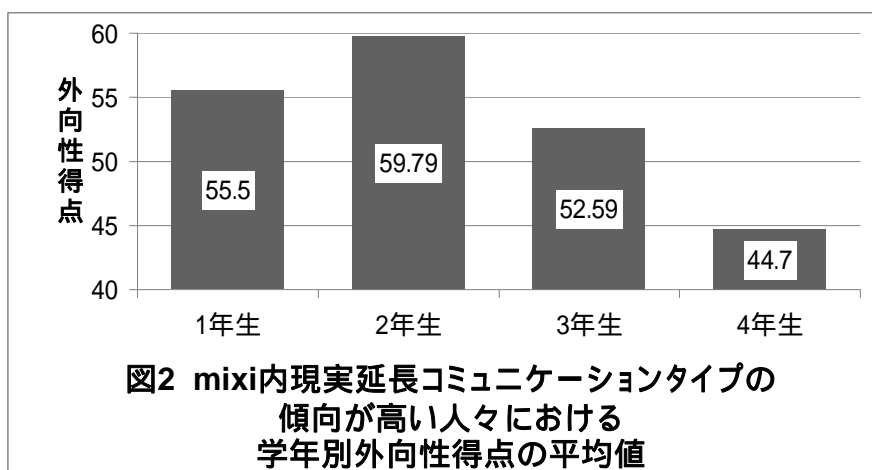
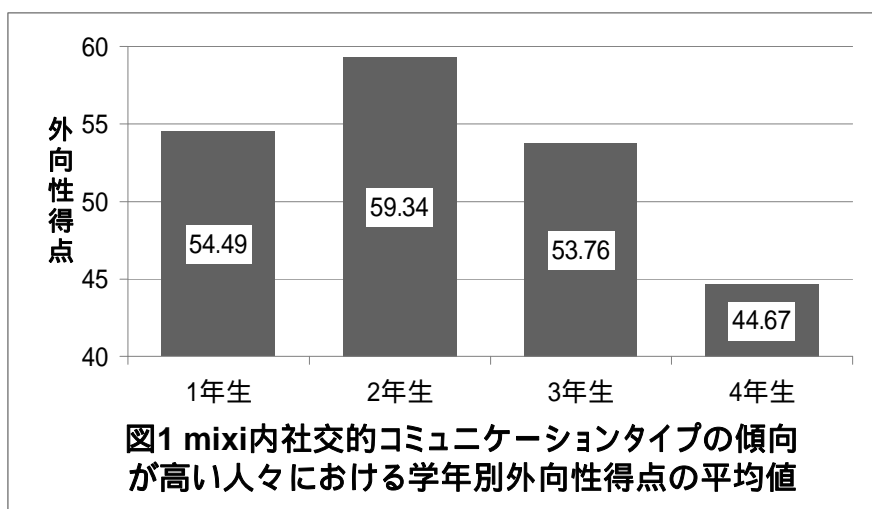
2-2) 考察

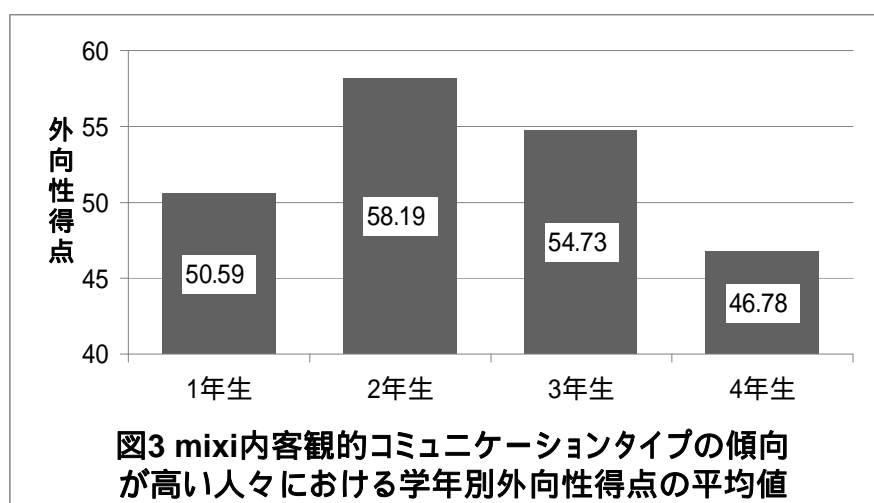
「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、全体と同じような傾向に加えて、「対人的関心・反応性」に有意な正の相関がみられた。この事から、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、全体にみられたような、他人に構わずマイペースに行動する傾向が低く、社会的な状況において積極的に自己開示をするという個人特性の傾向に加えて、更に人の反応を気にするような個人特性を持っていると言える。

5.4 mixi に対する参加態度からみる 4 学年別の個人特性の違い

学年別の個人特性の違いをみるために、mixi 参加態度 3 タイプの各得点高群による個人特性得点の平均値を算出し、一元配置分散分析を行なった。更に、Scheffe 法による多重比較を行なった。その結果を mixi に対する参加態度ごとに図に示した。

1) 学年による外向性尺度の違い





1-1) 結果

mixi内社会的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「外向性」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=4.15$ $p<.01$)。更に、Scheffe法による多重比較を行なったところ、2年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の外向性得点平均値を図1に示した。

mixi内現実延長コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「外向性」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=5.11$ $p<.01$)。更に、Scheffe法による多重比較を行なったところ、2年生と4年生、1年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の外向性得点平均値を図2に示した。

mixi内客観的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「外向性」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=4.12$ $p<.01$)。更に、Scheffe法による多重比較を行なったところ、2年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の外向性得点平均値を図3に示した。

1-2) 考察

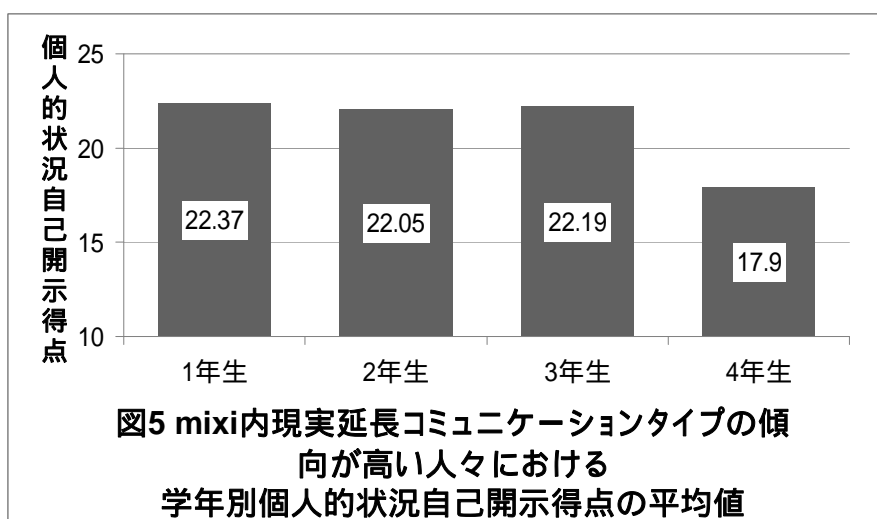
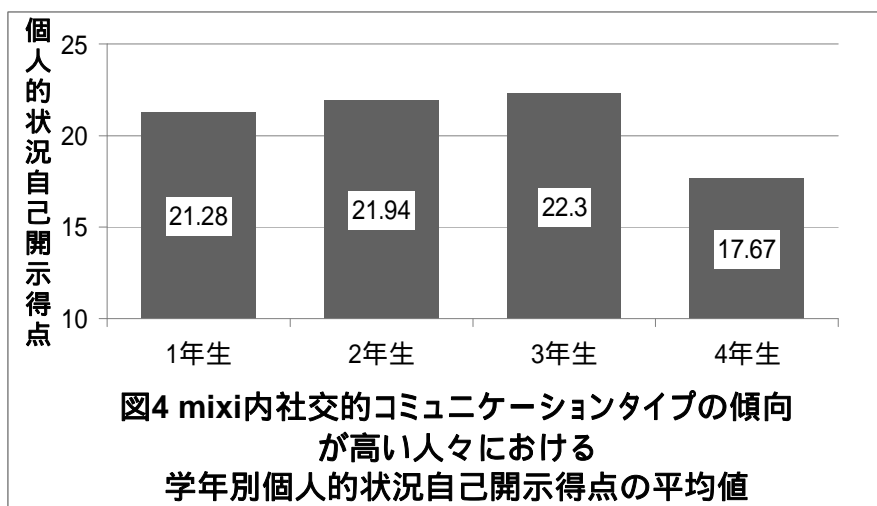
mixiに対する各参加態度の傾向が高い人々それぞれに共通して、4年生と2年生の「外向性」得点の平均値に有意な差がみられた。このことから、mixiに対する各参加態度の傾向が高い人々それぞれについて、特に2年生は平均して「外向性」得点が高い傾向にあり、反対に4年生は平均して「外向性」得点が高い傾向にある事がいえる。

2) 学年による個人的状況自己開示尺度の違い

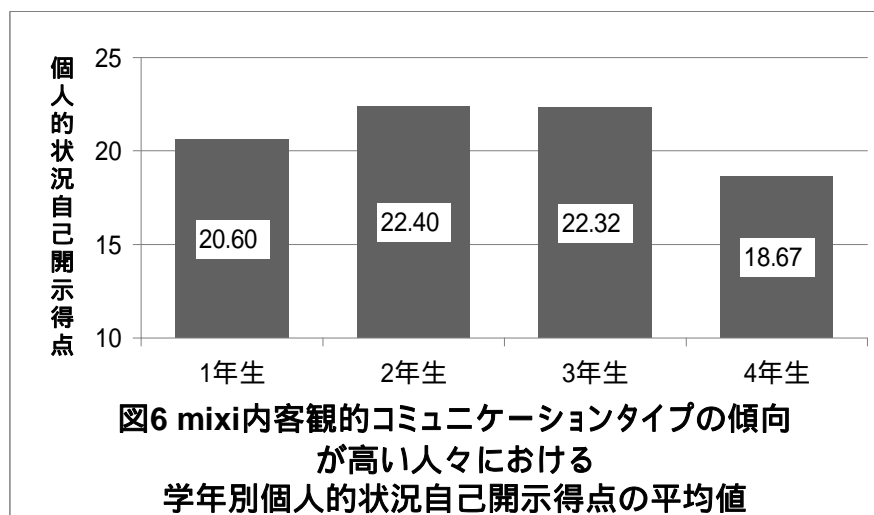
2-1) 結果

mixi内社会的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「個人的状況自己開示」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=3.76$ $p<.05$)。更に、Scheffe法による多重比較を行なったところ、1年生、2年生、3年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の個人的状況自己開示得点平均値を図4に示した。

mixi内現実延長コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「個人的状況自己開示」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=4.05$ $p<.01$)。更に、Scheffe法による多重比較を行なったところ、1年生、2年生、3年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の個人的状況自己開示得点平均値を図5に示した。



mixi 内容観的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、学年による「個人的状況自己開示」得点の違いについて一元配置分散分析を行なった。その結果、学年による有意な差がみられた ($F=3.45$ $p<.05$)。更に、Scheffe 法による多重比較を行なったところ、2年生、3年生と4年生との間で有意な差がみられた。学年別の個人的状況自己開示得点平均値を図6に示した。



2-2) 考察

mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、1年生と4年生、2年生と4年生、3年生と4年生の「個人的状況自己開示」得点の平均値に有意な差がみられた。このことから、mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々について、他学年に比べて4年生の「個人的状況自己開示」得点が特に低いという事がいえる。

mixi 内現実延長コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、1年生と4年生、2年生と4年生、3年生と4年生の「個人的状況自己開示」得点の平均値に有意な差がみられた。このことから、mixi 内現実延長コミュニケーションタイプの傾向が高い人々について、4年生の「個人的状況自己開示」得点が特に低く、1、2年生と3年生の「個人的状況自己開示」得点が比較的高いという事がいえる。

mixi 内容観的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々において、2年生と4年生、3年生と4年生の「個人的状況自己開示」得点の平均値に有意な差がみられた。このことから、mixi 内社会的コミュニケーションタイプの傾向が高い人々について、4年生の「個人的状況自己開示」得点が特に低く、2年生と3年生の「個人的状況自己開示」得点が比較的高いという事がいえる。

5.5 mixi 空間とは何か

これまでに述べた結果を複合的に捉え、mixi に対する参加態度の視点から mixi 空間とは何かを考察する。

1) mixi に対する参加態度からみる mixi 空間

- mixi 内社会的コミュニケーションタイプ

1-1) 低学年

「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々については、全体の考察において、mixi 内において頻繁に自己開示を行なっていると言う事ができ、自己開示の場である mixi という空間を、社会的かつ非日常的な空間であると捉えているというように述べた。これに対し、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々の場合には、全体の場合とほぼ同じ考察ができ、mixi という空間の捉え方についても同じことが言えよう。

全体と異なる点としては、比較的外向性が高いという分析結果から、全体の「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々よりも外向的な意識が強く、より積極的な姿勢がうかがえる事である。特に2年生については、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々において学年ごとに「外向性」得点の平均値を算出したところ最も高い得点を現しており、一元配置分散分析および Scheffe 法による下位検定の結果からは4年生との間に有意な差がみられている。しかし、電話よりもメール（携帯電話・PC いずれかを含む）を日常的に利用するという結果から、その積極性はデジタルツールによるコミュニケーションにおけるものであるという考え方もできる。

1-2) 高学年

「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い高学年の人々は、mixi に対する態度とログイン頻度との有意な関連はみられなかったものの、他の mixi 内機能の利用頻度にはすべて有意な正の相関がみられ、また mixi 上での行動にも各因子ともに有意な正の相関がみられたため、mixi を積極的に利用しており、積極的な自己開示の場として利用していると言える。特に4年生については、一元配置分散分析および Scheffe 法による下位検定の結果から、他学年に比べて mixi という空間を個人的な空間と捉える傾向は低いと言える。

2) mixi に対する参加態度からみる mixi 空間

- mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ

2-1) 低学年

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々については、全体の考察において、自己開示を行なっている mixi という空間を個人的な空間または現実の延長線上の空間であると捉えており、その空間における人間関係を円滑にする為に mixi を利用しているというように述べた。これに対し、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、全体の場合と共通した考察に加え、自ら日記を書き自己情報の発信をするなどして全体に比べて mixi 上で積極的に自己開示を行なっているという点と言える。その裏付けとなるのが「外向性」である。特に 2 年生については、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々において学年ごとに「外向性」得点の平均値を算出したところ最も高い得点を現しており、一元配置分散分析および Scheffe 法による下位検定の結果からは 4 年生との間に有意な差がみられている。この傾向は、「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々と同様である。しかし、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、mixi という空間を基本的には「個人的状況」として捉えて利用していると言える。

低学年の「mixi 内社会的コミュニケーションタイプ」、「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は「外向性」が高いという分析結果が出た理由としては、年齢・環境的なものが考えられる。例えば、大学 1・2 年生でまだ大学内の人間関係に慣れていない、または大学内の友人との仲が深まるような時間をまだ多くは過ごしていないため、mixi などのコミュニケーションツールを積極的に利用して人間関係への不安を解決しようというような理由である。もしくは、地方出身者などで一人暮らしの学生であれば、慣れない一人暮らしの寂しさから、大学内の友人に限らず地元や出身校の友人と積極的にコミュニケーションをとろうとするかもしれない。低学年の「外向性」の高さの背景には、これらのような理由が考えられよう。

2-2) 高学年

「mixi 内現実延長コミュニケーションタイプ」の傾向が高い高学年の人々は、日記を介したコミュニケーションはあまり行なわないが、マイクとのボイスでのやりとりは頻繁に行なっている。また、「mixi 利用相互コミュニケーション重視型」に有意な正の相関がみられたため、日記を書くなどして自己情報の発信を行なう事よりは、人との相互のコミュニケーションを重視する利用スタイルがみられる。つまり、mixi を特に対人コミュニケーションの場であると捉えており、その方法として日記ではなくボイスなどを介したやりとりを利用しているという事が言える。

高学年については、全体および低学年に共通してみられた「個人的状況自己開示」との

有意な正の相関がみられなかった。この背景については、4年生の「個人的状況自己開示」得点の平均値が他学年と比べて低い事が原因であると言えよう。

3) mixi に対する参加態度からみる mixi 空間

- mixi 内客観的コミュニケーションタイプ

3-1) 低学年

「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々については、全体の考察において、自己開示を行なっている mixi という空間を社会的な空間であると捉えており、その空間の中で、相手にあまり深く関わろうとしない第三者的視点による対人コミュニケーションを行なっているというように述べた。これに対し、「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い低学年の人々は、mixi という空間の捉え方としては全体の考察と同じ事が言えるが、全体と異なる点は、第三者的視点による対人コミュニケーションを mixi 上で行なっているが、人の反応を気にする面が個人特性としてあるという点である。この事から、低学年の「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い人々は、全体と比べると、人との距離の取り方はそれほど大きなものではなく、ある種「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」に完全にはなりきれていないというような態度がうかがえよう。

3-2) 高学年

「mixi 内客観的コミュニケーションタイプ」の傾向が高い高学年の人々は、mixi 上でボイスやコミュニティなどでのやりとりは行なうが、日記にコメントをつけることや、mixi 上での行動の各因子ともに有意な相関がみられなかった点で全体とは異なる結果となっている。従って、自己情報の発信というような利用や、対人コミュニケーションを重視するような利用については明確に述べることはできないが、4年生については、相対的にみて、外向的な個人特性を持つ傾向、個人的状況で自己の情報を発信する傾向が著しく低い。これらの事から、漫然と友人（マイミク）と程度の軽い会話を楽しんだり、コミュニティの掲示板などで必ずしも実際の知人やマイミクとは限らない相手との掲示板での軽いやりとりを楽しんだりする空間として捉えているのではないかと考える。

引用文献

- 朝日新聞 1991年5月9日 朝刊 「世論調査 国民支持気にした首相」.
- 足立由美・高田茂樹・雄山真弓・松本和雄 2003 携帯電話コミュニケーションから見た大学生の対人関係 教育学科年報(関西学院大学文学部教育学科), 29, 7-14.
- Argyle, M. & Henderson, M. 1985 The Anatomy of Relationships: And The rules and skills needed to manage them successfully. (M.アーガイル、M.ヘンダーソン著 吉森護編訳 1992 人間関係のルールとスキル 北大路書房).
- 安藤清志 1987 末永俊郎編 社会心理学研究入門 東京大学出版会 139-141,211-128.
- 安藤玲子・坂本章・鈴木佳苗・小林久美子・榎淵めぐみ・木村文香 2004 インターネット使用が人生満足感と社会的効力感に及ぼす影響：情報系専門学校男子学生に対するパネル調査 パーソナリティ研究, 13(1), 21-33.
- 大坊郁夫 1993 親密さの心理学とコミュニケーションの機能 電子情報通信学会技術研究報告.HC,ヒューマンコミュニケーション, 93(345), 33-40.
- 遠藤公久 1989 開示状況における開示意向と開示規範からのズレとについて - 性格特徴との関連 - 教育心理学研究, 37(1), 20-28.
- 藤桂・吉田富二雄 インターネット上での行動内容が社会性・攻撃性に及ぼす影響：ウェブログ・オンラインゲームの検討より 2009 日本社会心理学会 社会心理学研究, 25(2), 121-132.
- 萩原滋・小城英子・村山陽 大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子 2010 テレビ視聴の現況と記憶--ウェブ・モニター調査(2009年2月)の報告(1) (特集 テレビ視聴の多様化と記憶の共有) メディア・コミュニケーション, 60, 5-28.
- 橋元良明 1997 メディア環境の変化とコミュニケーション行動 電子情報通信学会電子情報通信学会総合大会講演論文集 基礎・境界, 522-523.
- 堀洋道・山本真理子・松井豊編 1994 心理尺度ファイル 人間と社会を測る 垣内出版.
- 角野善司 1995 L3041 人生に対する肯定的評価尺度の作成 (1) 日本教育心理学会総会発表論文集, 37, 95.
- 株式会社ミクシィ <http://mixi.co.jp/> (2010年12月25日現在).
- 株式会社ミクシィ 「『mixi』のユーザー数が2,000万人に」
<http://mixi.co.jp/press/2010/0414/2681> (2010年12月25日現在).
- 株式会社ミクシィ 「『mixi』ユーザー数1000万人突破」
<http://mixi.co.jp/press/2007/0521/423> (2010年12月25日現在).
- 木内泰・鈴木佳苗・大貫和則 2008 ケータイを用いたコミュニケーションが対人関係の親密性に及ぼす影響 高校生に対する調査 日本教育工学会論文誌, 32, 169-172.

- 小林哲郎・池田謙一 2007 若年層の社会過程における携帯メール利用の効果 社会心理研究, 23(1), 82-94 .
- 小寺敦 2009 若者のコミュニケーション空間の展開 SNS「mixi」の利用と満足、および携帯メール利用との関連性 情報通信学会誌, 27(2), 55-66 .
- 真船浩介・鈴木綾子・大塚泰正 2006 大学生におけるストレスの特徴: 認知的評定、及び心理的ストレス反応との関連の検討 学校メンタルヘルス 9 = Journal of school mental health, 57-63 .
- 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著 2005 社会調査へのアプローチ 第2版 - 調査と方法 - ミネルヴァ書房 10-19 .
- 岡田朋之・松田美佐 2002 ケータイ学入門 有斐閣 221,223 .
- 奥田秀宇 1987 調査法の実際 末永俊郎編 社会心理学研究法入門 東京大学出版会 131-148 .
- オリコン株式会社 ORICON STYLE「SNS 実態調査」
<http://www.oricon.co.jp/entertainment/special/2010/sns1215/index.html>
(2010年12月23日現在).
- 斎藤和志・中村雅彦 1987 对人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科) 34, 97-109 .
- 渋井哲也 2006 ウェブ恋愛 筑摩書房 .
- 総務省 情報通信統計データベース「平成22年版 情報通信白書」
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h22/index.html>
(2010年12月23日現在).
- 高井範子 2008 青年期における人間関係の悩みに関する検討 太成学院大学紀要, 10, 85-95 .
- 読売新聞株式会社 YOMIURI ONLINE「世代を越えて普及...オリコンが「SNS」利用実態調査」
<http://www.yomiuri.co.jp/net/news/internetcom/20101220-OYT8T00406.htm>
(2010年12月23日現在).

資料1

各層別調査票配布数と回収数

	性別	学生数	調査票配布数	回収数
経済学部	男	1199	111	58
	女	550	38	24
文芸学部	男	523	52	28
	女	1279	117	80
法学部	男	712	86	38
	女	393	47	29
社会イノベーション学部	男	526	55	31
	女	672	58	45
合計		5854	564	333

学部・性別不明 16票（学生数は2010年5月現在）

各学部学年別回答数

	性別	1年	2年	3年	4年	合計
経済学部	男	20	16	16	6	58
	女	9	14	1	0	24
文芸学部	男	13	10	4	1	28
	女	19	40	20	1	80
法学部	男	13	12	11	2	38
	女	6	13	9	1	29
社会イノベーション学部	男	10	8	8	5	31
	女	17	9	7	10	43
合計		107	122	76	26	331

学部・学年・性別不明 18票

資料2 各設問への回答比率

コミュニケーション・ツールの利用と社会生活に関する調査

調査ご協力をお願い

私達は、量的社会調査実習の授業の一環として、コミュニケーション・ツールに関する調査を行なっています。インターネットの利用が多様化する中で、コミュニケーション・ツールの利用と社会生活との関連を明らかにしたいと考えています。成城大学の学生の特徴をできるだけ正確に表わせるように、調査数の比率が各学部の男子学生、女子学生の比率と同じになるように設定して調査をお願いしています。回答していただいた結果は、全体的な傾向を調べるための統計分析のみに使用し、個人のデータをそのほかの目的に流用することはいっさいありません。

また、調査結果は来春以降に大学のホームページ上 (<http://www.seijo.ac.jp/falit/orig/license/tyousashi.html>) で公表いたします。ぜひともご協力をお願いいたします。

お答えいただきました回答用紙は、**10月14日(木)** までに、

1号館一階教務課の調査票回収ボックスまでお持ちください。

どうぞよろしくお願いいたします。

文芸学部国文学科3年 石井 綾
文芸学部コミュニケーション学科3年 嵯峨麻理子
文芸学部コミュニケーション学科3年 豊田 香純
文芸学部コミュニケーション学科3年 西村美佐子
文芸学部コミュニケーション学科3年 埴 美沙季
文芸学部コミュニケーション学科3年 福田 雪乃
文芸学部コミュニケーション学科3年 家邨佳世子
量的社会調査実習担当 鈴木 靖子
ysuzuki@seijo.ac.jp

調査票の中の用語について、以下のような内容を意味しています。

「友人」とは、日常的に会話を交わすような間柄
「知り合い」とは、お互いに顔や名前を知っており、挨拶を交わす程度の間柄
「マイミク」とは、mixiで相互に友人関係として登録した人々

インターネット上においてのみ交流している相手は含めないものとします。

Q1. 以下に挙げる様々なコミュニケーション・ツールについて、あなた自身の利用状況に最も近いものはどれでしょうか。次の a、b、c、d、e のうちから一つを選んでつけてください。

- a: 毎日利用する
- b: 週2回～3回利用する
- c: 月に2回～3回利用する
- d: 月1回～3ヶ月に1回利用する
- e: 利用しない

	アルファベットの下の数値は回答比率(%)					無回答
	a	b	c	d	e	
1) 電話でのやりとり	25.2	44.1	19.8	8.0	2.0	0.9
2) メール(携帯電話・PCいずれかを含む)でのやりとり	83.1	12.3	2.6	0.3	1.1	0.6
3) mixi へのログイン	64.5	6.9	2.6	2.6	22.3	1.1
4) mixi でマイミクの日記を読む	38.1	23.8	7.2	4.9	25.2	0.9
5) mixi でマイミクの日記にコメントをつける	11.7	33.5	14.0	10.3	30.1	0.3
6) mixi で日記を書く	0.9	2.6	10.9	33.2	51.0	1.4
7) mixi でマイミクとボイスでのやりとり	23.5	23.8	10.0	7.4	34.4	0.9
8) mixi のコミュニティでのやりとり	3.7	7.4	8.3	15.8	64.2	0.6

Q2. 以下に挙げるコミュニケーション・ツールの利用方法について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。次の a、b、c、d、e のうちから一つを選んでつけてください。

- a: あてはまる
- b: どちらかといえばあてはまる
- c: どちらかといえばあてはまらない
- d: あてはまらない

	アルファベットの下の数値は回答比率(%)					無回答
	a	b	c	d		
1) mixi の日記やボイスで返信を書く相手が決まっている。	16.3	39.3	11.5	30.9	2.0	
2) もともとと実生活で日記を書いていたので、mixi 上でも書いてみたい。	2.0	9.5	16.3	69.9	2.3	
3) mixi 上では実際よりも控え目にふるまう。	6.9	18.9	27.5	44.4	2.3	
4) mixi がきっかけで疎遠だった知り合いと仲良くやり取りをしている。	12.9	29.8	15.2	39.8	2.3	
5) 他の人の mixi 上の日記を見ると自分も書きたくなる。	4.9	13.8	23.2	55.6	2.6	
6) mixi をやっている知人とは、できるだけマイミクになる。	16.9	24.4	22.1	34.4	2.3	
7) とりとめのないやりとりをするときは、メールより mixi を使う。	5.4	10.0	16.3	65.9	2.3	
8) 実際の自分は mixi 上よりも社交的である。	9.5	21.2	27.2	39.8	2.3	
9) mixi 上の日記に自分の悩みを書いている。	2.3	7.7	12.0	75.1	2.9	
10) マイミクの人数を増やすための工夫をしている。	3.2	2.6	14.6	77.1	2.6	
11) 友人で構成された mixi のコミュニティに入っている。	40.4	9.5	4.3	43.6	2.3	
12) mixi をしていてよかったと思うことが多い。	22.1	35.0	12.9	27.8	2.3	
13) 会って話をするより mixi 上でやりとりすることのほうが多い相手がいる。	17.5	14.6	13.2	52.7	2.0	

Q3. 以下にコミュニケーション・ツールに関する様々な事柄が述べられています。あなた自身の考えに最も近いのはどれでしょうか。次のa、b、c、dのうちから一つを選んでつけてください。

- a: そう思う
- b: どちらかといえばそう思う
- c: どちらかといえばそう思わない
- d: そう思わない

	アルファベットの下の数値は回答比率(%)				無回答
	a	b	c	d	
1) mixi 上で日記を書く人は、他者に読まれることを意識して日記を書いていると思う。	45.3	27.5	6.9	16.9	3.4
2) mixi を利用することにより日常での友人との会話が増える。	14.9	35.8	22.6	23.8	2.9
3) mixi でやりとりをすると不満や葛藤などを発散しスッキリする。	5.4	19.5	24.4	47.6	3.2
4) mixi 上で日記を書く人は他者からのコメントを意識して日記を書いている。	20.9	33.0	17.2	25.8	3.2
5) mixi 内ではマイミク同士で交流する傾向がある。	36.1	26.1	12.6	22.1	3.2
6) mixi 上で自分のことを書くことにより、他人もその人自身のことを知らせてくれるようになる。	8.3	30.4	28.9	28.1	4.3
7) マイミクの人数は多いほうが望ましい。	7.2	20.6	32.1	37.0	3.2
8) 人間関係を維持するうえで mixi は必要である。	5.4	20.3	25.5	45.8	2.9
9) mixi 上の日記へのコメントには批判的なものがある。	8.0	17.8	28.4	43.0	2.9
10) mixi 内での会話は現実離れしている。	4.0	11.7	35.2	45.3	3.7
11) mixi に日記を書く人はその日記に自分自身を表現している。	14.3	45.0	16.9	19.8	4.0
12) 友人と直接会って話すより mixi 上での交流の方が楽しい。	0.6	6.0	27.8	62.2	3.4
13) mixi 上の日記を読むとそれを書いた人がよく理解できる。	6.0	32.7	28.1	29.8	3.4
14) mixi でやりとりをすると感情が整理され自分の問題が明確になる。	2.9	16.6	31.2	45.3	4.0
15) マイミクの日記にはコメントをするのが礼儀である。	1.7	15.5	31.5	47.9	3.4
16) mixi 上では個人と個人が率直に意見交換できる。	3.7	17.5	34.1	41.3	3.4
17) mixi の日記は日々の生活の記録になる。	10.9	37.8	20.6	26.6	4.0
18) mixi を利用することによって、人や物の情報提供・情報交換の場になる。	27.2	45.0	8.3	15.8	3.7
19) 普段会って話をする間柄でもマイミクになっていないと距離を感じる。	3.7	12.3	26.9	53.0	4.0
20) mixi を利用することによって、余暇時間の有効利用ができる。	30.1	29.5	14.6	22.3	3.4
21) mixi のボイスや日記で、友人達が話す内容が自分にはわからないことがあっても気にならない。	34.4	27.5	16.3	18.3	3.4
22) mixi 上では自分に共感してくれる人と親しくなれる。	10.0	36.7	27.2	22.9	3.2
23) mixi 上の日記には公開制限が必要である。	41.8	23.5	14.0	16.9	3.7
24) mixi への参加は人間関係を円滑にする。	5.4	35.2	27.8	28.1	3.4
25) mixi を利用することによって、自分という人間を他者に知ってもらうことができる。	11.2	40.4	19.8	25.5	3.2

26) mixiでのやりとりは現実社会での自分の役割から離れて本来の自分を取り戻せるような気がする。	1.7	10.9	31.8	50.7	4.9
27) mixiは他者との連絡手段である。	17.5	33.8	17.8	26.1	4.9

Q4. 以下に他者との関わりに関する様々な内容が述べられています。あなた自身にどれくらいあてはまりますか。次のa、b、c、d、eのうちから一つを選んでをつけてください。

- a: とてもそう思う
- b: 少しそう思う
- c: どちらともいえない
- d: あまりそう思わない
- e: まったくそう思わない

	アルファベットの下の数値は回答比率(%)					無回答
	a	b	c	d	e	
1) 日ごろから人間関係を大事にしている。	50.4	37.2	8.3	2.6	1.1	0.3
2) 人付き合いがよい方だと思う。	22.9	34.1	25.2	14.6	2.9	0.3
3) 自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考える方である。	31.5	33.5	18.9	12.0	2.9	1.1
4) 人が私の行為についてどのように考えているかということは重要ではない。	11.2	18.6	22.1	32.4	15.2	0.6
5) 同じゲームをやるなら、一人でできるものよりも、相手がいてできるものの方がよい。	26.4	25.5	29.5	10.6	7.4	0.6
6) あまり人のことには立ち入らない方である。	20.1	34.7	27.5	15.5	2.0	0.3
7) 人からの批判が気になる。	32.1	36.1	20.1	8.6	2.9	0.3
8) 出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する。	18.6	33.5	28.9	13.5	4.3	1.1
9) 仕事上の付き合いでは、個人的に親しくなることは重要ではない。	9.7	18.1	27.8	31.8	12.0	0.6
10) 微笑みかけたり、嫌な顔をする人が気になる。	20.3	41.3	24.4	8.3	4.9	0.9
11) 他人の行動の動機を知ることに関心がある。	22.6	37.8	21.8	11.5	5.7	0.6
12) 人から個人的な話をもちかけられるのは煩わしいものだ。	4.3	12.3	27.5	29.2	26.1	0.6
13) 人のことには構わずマイペースで行動する方である。	21.8	35.0	25.2	13.5	3.7	0.9
14) 他人の感情や気持ちを考えることは意味がない。	3.4	6.9	15.5	25.8	47.0	1.4
15) 人が本当はどんな人物であるかに関心がない。	6.0	11.5	17.8	32.4	31.5	0.9
16) 自分とかわりのある人については、なるべくいろいろなことを知りた いと思う。	31.8	34.4	24.4	6.6	1.4	1.4
17) 他人事でも一喜一憂することが多い。	19.5	39.3	25.8	10.0	4.9	0.6
18) 自分にとって人間関係は煩わしいものである。	4.3	16.0	22.3	28.7	28.1	0.6

Q5. 以下のそれぞれの項目はあなたにどれくらいあてはまりますか。次の a、b、c、d、e、f、g のうち自分に最もあてはまると思うアルファベットに をつけてください。

- a: 非常にあてはまる
- b: かなりあてはまる
- c: ややあてはまる
- d: どちらともいえない
- e: あまりあてはまらない
- f: ほとんどあてはまらない
- g: まったくあてはまらない

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	e	f	g	無回答
1) 話し好き	20.9	21.2	30.7	13.2	7.4	3.7	2.0	0.9
2) 無口な	2.6	9.7	21.8	16.3	19.5	16.0	13.5	0.6
3) 陽気な	12.3	20.3	30.4	20.6	10.3	2.9	2.0	1.1
4) 外向的	10.6	16.6	25.8	22.3	14.0	6.9	3.2	0.6
5) 暗い	4.9	6.9	16.6	20.3	20.9	14.6	14.6	1.1
6) 無愛想な	4.9	10.0	16.0	17.5	23.2	15.8	12.0	0.6
7) 社交的	13.5	15.5	27.5	21.5	11.7	6.9	2.9	0.6
8) 人嫌い	4.0	6.6	15.8	18.9	14.9	19.2	20.1	0.6
9) 活動的な	10.9	16.9	28.1	20.3	14.3	5.2	3.2	1.1
10) 意思表示しない	4.6	10.3	16.9	23.5	16.3	13.2	14.3	0.9
11) 積極的な	9.7	14.9	20.6	26.1	17.2	7.4	3.4	0.6
12) 地味な	6.3	9.5	20.1	26.9	19.2	10.9	6.6	0.6

Q6. 以下のような状況で、あなたは自分自身のことをどれだけ相手に話しますか。「こういうときには自分の感情や考えについて相手にわかってもらうために、できるだけ詳しく話そうとするだろう」を1、「私ならこういうときがあっても、表面的な話ししかしないであろう」を6として、1から6の中で最もあてはまると思う番号を一つ選んで をつけてください。

こういうときには自分の感情 や考えについて相手にわかって もらうために、できるだけ詳 しく話そうとするだろう。	6	5	4	3	2	1	私ならこういうときがあつて も、表面的な話ししか、しない であろう。

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	6	5	4	3	2	1	無回答
1) 友人と2人で喫茶店で雑談をしているとき	39.3	33.8	16.0	6.9	2.0	0.9	1.1
2) 数人の友達とコンパ・クラス会などに参加しているとき	6.0	12.0	24.4	21.8	24.6	9.5	1.7
3) 乗り物の中で隣席の人が話しかけてきたとき	1.4	6.9	14.6	10.6	23.8	41.5	1.1

4) 友達の家族と初めて出会ったとき	3.7	12.3	24.1	21.8	22.1	14.6	1.4
5) 知人と街の道端で出会ったとき	3.2	9.7	27.5	24.4	18.9	15.2	1.1
6) 乗り物の中である友人と一緒にいるとき	8.6	33.0	37.8	11.7	5.2	2.0	1.7
7) 知人たち(知り合って間もないが、自分が好意的に思っている人)が自分の家に遊びにきたとき	15.2	37.5	25.8	12.9	4.6	2.3	1.7
8) 1人で食事中、ある人が相席をしてよいかと尋ねてきたとき	2.9	4.3	10.6	16.0	22.9	41.5	1.7
9) レストランで友人たちと食事を一緒にしているとき	19.5	36.1	23.5	12.6	5.4	1.1	1.7
10) 初めてのクラス会で全く知らない人たちの前で自己紹介をするとき	3.4	7.2	16.6	24.4	23.8	22.3	2.3
11) 居酒屋で知人数名と一緒にになったとき	12.6	23.8	30.9	17.8	7.2	6.0	1.7
12) 乗り物の中でたまたま知人たちと一緒にになったとき	4.0	12.0	32.4	27.5	14.9	7.2	2.0
13) 何人かの人に自宅で紹介されたとき	6.6	15.2	26.6	27.8	14.6	7.2	2.0

Q7. あなた自身の mixi の利用状況についてお尋ねします。

- 1) あなたは mixi のアカウントを持っていますか。または以前持っていましたか。
はい 71.6% いいえ 19.2% 無回答 9.2%

Q7の1)で「いいえ」と回答された方はQ8に進んでください。

2) あなたはどのように mixi に登録しましたか。

	(回答率%)
友人(具体的に)の紹介	62.5
知り合い(具体的に)の紹介	1.4
家族・親族(具体的に)の紹介	2.0
インターネット上でのみ交流がある人の紹介	0.6
自分で登録	2.9
その他(具体的に)	0.9

3) マイミクの人数を教えてください。 平均 105.8人

4) マイミクの中で友人はどのくらいの割合ですか。 平均 81.8%

Q8. あなたの性別を教えてください。 男性 45.6% 女性 52.4 %

Q9. あなたの所属と学年を教えてください。

ご協力ありがとうございました。

執筆者一覧

執筆者

石井 綾 文芸学部国文学科3年
嵯峨 麻理子 文芸学部マスコミュニケーション学科3年
豊田 香純 文芸学部マスコミュニケーション学科3年
西村 美佐子 文芸学部マスコミュニケーション学科3年
福田 雪乃 文芸学部マスコミュニケーション学科3年
家邊 佳世子 文芸学部マスコミュニケーション学科3年

実習及び執筆指導

鈴木 靖子 成城大学文芸学部非常勤講師

編 集 鈴木 靖子 (担当教員)

発行者 成城大学文芸学部社会調査士資格課程運営委員会
東京都世田谷区成城 6 - 1 - 20

<http://www.seijo.ac.jp/falit/orig/license/tyousashi.html>

印刷 2011 年 3 月

発行日 2011 年 3 月